

# DX 推進者育成教材資料





# 目次

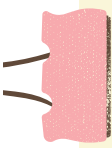
|                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| 第1章 生成AIの現状とビジネス活用動向 .....           | 1   |
| 第2章 生成AIツールの種類と選定基準 .....            | 12  |
| 第3章 プロンプトエンジニアリングの基礎と応用 .....        | 23  |
| 第4章 テキスト生成AIの業務活用 .....              | 33  |
| 第5章 画像・動画・音声生成AIの活用 .....            | 42  |
| 第6章 クラウドAIとAPIを活用したサービス開発 .....      | 50  |
| 第7章 営業・マーケティングでの生成AI活用 .....         | 59  |
| 第8章 業務効率化とBPRにおける生成AI活用 .....        | 68  |
| 第9章 生成AIの倫理・コンプライアンス・セキュリティ対策 .....  | 76  |
| 第10章 生成AIを活用したドキュメントワークフローの自動化 ..... | 85  |
| 確認テスト 解答 .....                       | 93  |
| 演習課題.....                            | 101 |





# 第1章 生成AIの現状と ビジネス活用動向

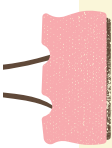
最新の業界トレンドと具体的な活用シナリオ



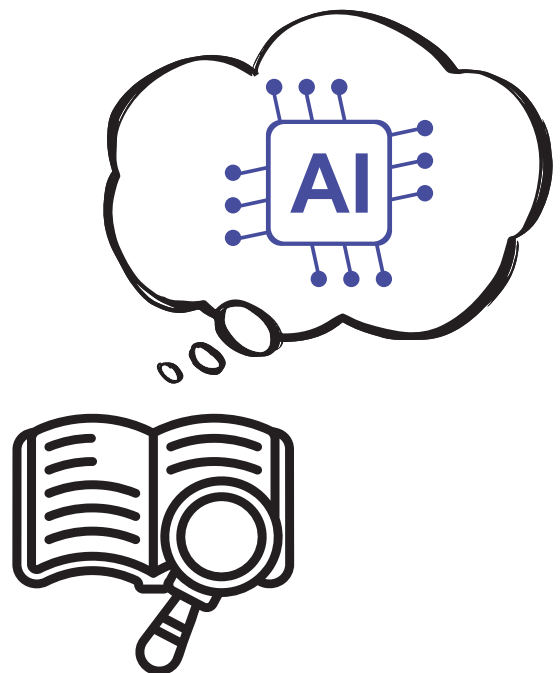
## 生成AIとは？（基本概要）

- 生成AIの定義（Generative AIの概念）

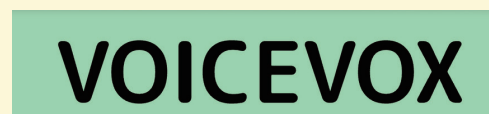
従来のAIが決められた行為の自動化が目的であるのに対し生成AIは、データのパターンや関係を学習し新しいコンテンツを生成することを目的としています。



さまざまなコンテンツを生成できるAIまたはさまざまなコンテンツを生成する学習能力があるAIともいえます。



## 代表的な技術（テキスト・画像・動画・音声生成）



## 生成AIの進化と市場規模

・近年の技術進化  
(GPT-4.5, Gemini, Claude など)

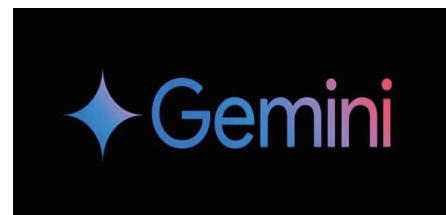
近年の生成AIは飛躍的に進化しGPT-4.5、Gemini、Claude などの最新モデルが登場しています。

GPT-4.5は、処理速度と精度が向上しより長い文脈の理解が可能になりました。

GoogleのGeminiは、マルチモーダル対応（テキスト・画像・音声）を強化し、汎用性が高まっています。

Claude は倫理性を重視した設計で信頼性の高い対話が可能です。

これらの進化により、ビジネスや教育医療など幅広い分野での活用が加速しています。



## 生成AI市場の成長予測と影響力



生成AI市場は急速に拡大しており、2025年には数十兆円規模に達すると予測されています。

主要企業（Google、Microsoft、OpenAIなど）の投資が加速し、多様な業界で導入が進行中です。

マーケティング、自動化、顧客対応、コンテンツ制作など幅広い分野で生産性向上が期待されます。

一方で、データプライバシー、著作権倫理的課題も増大しており、適切な規制と運用ガイドラインの確立が求められています。

今後の進化が社会全体に大きな影響を与えるでしょう。



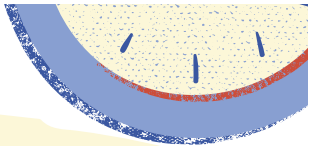
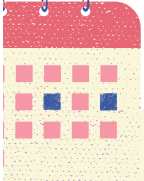
## 生成AIがもたらすビジネス変革

生成AIは、業務の効率化と生産性向上に大きく貢献します。例えば、文書作成やデータ分析を自動化し従業員の手作業を削減することで業務時間を短縮できます。

また、カスタマーサポートの自動応答やマーケティングコンテンツの生成により、人的コストを削減しつつ質の高いサービスを提供可能です。

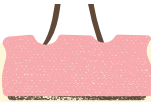
さらに、クリエイティブ分野ではデザインや動画制作の支援を行い、新たなアイデアの創出を加速。こうした活用により、企業のイノベーションが促進され、競争力向上につながります。





## 主要業界での活用事例1 マーケティング・広告

生成AIはマーケティング・広告分野で大きな変革をもたらしています。広告コピーの自動生成によりターゲット層に最適化されたメッセージを短時間で作成可能になり、A/Bテストの効率も向上。バナー広告のデザインも、画像生成AIを活用することで、ブランドに合った多様なビジュアルを自動作成できます。また、SNS投稿の文章やコンテンツの自動生成により、企業は一貫性を保ちつつ、高頻度な発信が可能になり、エンゲージメント向上にも貢献します。



## 主要業界での活用事例2 カスタマーサポート分野

カスタマーサポート分野では、生成AIを活用したチャットボットが急速に普及しています。自然言語処理技術の進化により、従来のルールベース型と比べより柔軟かつ自然な対応が可能になりました。FAQの自動生成機能を活用すれば、過去の問い合わせデータから適切な回答を作成し、ナレッジ管理を最適化できます。これにより、企業は対応コストを削減しつつ、24時間対応の顧客サポートを実現できるようになります。



### 主要業界での活用事例3

生成AIは小売・EC業界で大きな変革をもたらしています。

まず、商品説明文の自動生成により大量の商品データを短時間で作成し一貫性のある説明文を提供可能になりました。

これにより、ECサイトの運営効率が向上しSEO対策にも貢献します。

次に、AIによるパーソナライズ提案では顧客の購買履歴や閲覧データを分析し最適な商品をレコメンド。

これにより、CVR（コンバージョン率）の向上と顧客満足度の向上が期待できます。



### 主要業界での活用事例4 医療・ヘルスケア

医療・ヘルスケア分野では、生成AIが診断の効率化や医療従事者の負担軽減に貢献しています。

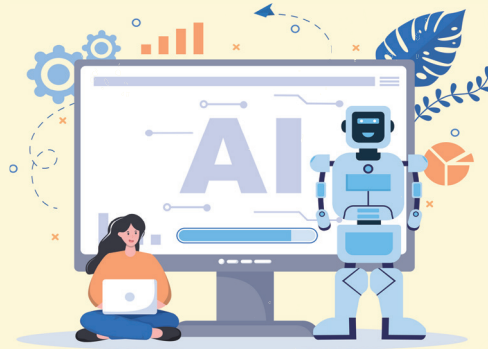
例えば、医療レポートの自動作成では、患者の診察記録や検査結果をもとにAIが迅速かつ正確に診断レポートを作成し、医師の作業時間を削減します。

また、診断補助ツールとして、AIが画像診断（X線・MRIなど）を解析し、疾患の早期発見を支援する事例も増えています。今後、AI活用の精度向上と倫理的な活用が求められます。



## 主要業界での活用事例5 教育・学習支援

生成AIは教育分野に革新をもたらしています。自動教材作成では、AIが教科書や論文を要約し、学習レベルに応じた問題集や解説を生成できます。これにより、教師の負担を軽減し、カスタマイズされた教材提供が可能になります。また、AIチューターは個別学習支援に活用されリアルタイムで質問に回答したり、学習進捗を分析して適切な課題を提示することができます。これにより、生徒一人ひとりに最適な学習体験を提供し、教育の質を向上させることが期待されています。



## 生成AIの成功事例1 大手企業の導入事例

Google、Microsoft、Metaは生成AIを積極的に活用し、ビジネス変革を推進しています。

GoogleはGeminiを開発し、検索やクラウドサービスに統合。

MicrosoftはCopilotをOffice製品に導入し、生産性向上を支援。

MetaはAIチャットボットをSNSや広告最適化に活用。

これらの企業は生成AIをビジネスの中核に据え、業務効率化、ユーザーエンゲージメント向上、新規サービス創出を進めています。今後も多様な業界で活用が広がるでしょう。



Microsoft





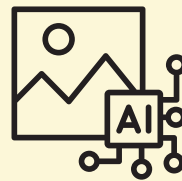
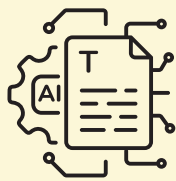
## 生成AIの成功事例2

近年、生成AIを活用したスタートアップが急増しており、新たなビジネスモデルを生み出しています。

例えば、文書生成AIを活用した自動コンテンツ作成サービスや画像生成技術を活用したデザインツールが登場し、企業の業務効率化やコスト削減に貢献しています。

また、AIによるカスタマーサポートの自動化や個別最適化された学習コンテンツの提供など、多様な分野で革新的なサービスが生まれています。

今後も、生成AIを活用した新規ビジネスが拡大すると期待されています。



## 生成AI活用の課題とリスク

生成AIの活用には多くの可能性がある一方で、課題やリスクも存在します。

倫理・法規制の課題として、AIが生成するコンテンツの著作権や

個人情報を含むデータプライバシーの取り扱いが重要視されています。

適切な規制対応が求められます。また、精度の限界と誤情報のリスクも大きな問題です。

AIは不正確な情報や偏った出力をすることがあり、ビジネス活用においてはファクトチェックや人的監視が不可欠です。適切な管理のもとで活用を進める必要があります。





## 生成AI導入のポイント

生成AIを効果的に導入するには、適切なデータ環境の整備と人材育成が不可欠です。

データ環境ではAIが学習できる高品質なデータの蓄積やプライバシー管理が求められます。

人材面ではプロンプトエンジニアリングやAI活用スキルを持つ人材の育成が鍵となります。

導入ステップとしては、小規模なPoC（概念実証）から開始し、効果を検証しながら本格展開を進めることが推奨されます。

適切なツール選定と業務適用範囲の明確化が成功のカギです。

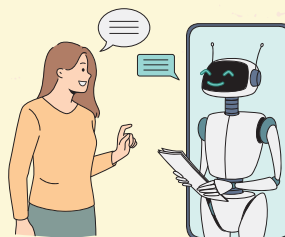
## 未来展望 今後の進化と可能性

生成AIは急速に進化し、将来的にはAGI（汎用人工知能）への発展が期待されています。

AGIは単一のタスクに特化せず、人間のように幅広い分野での思考や判断が可能になります。

また、生成AIはIoTやロボティクスと連携しスマートデバイスの自動化や高度な製造プロセスの最適化に貢献するでしょう。

これにより、AIはより高度な意思決定支援や創造的業務の補助を担い、ビジネスの在り方を大きく変革する可能性を秘めています。



# 第1章確認テスト

問1. 生成AI（Generative AI）の特徴として正しいものは次のうちどれでしょうか。

- 1 決められた行為をただ自動化することだけが目的
- 2 新しいコンテンツを生成する機能を持たない
- 3 データのパターンや関係を学習し、新たなコンテンツを生み出すことを目的とする
- 4 特定の分野に限定して応答のみ行うAIを指す

問2. 次のうち、スライドで紹介された「代表的な生成AI技術」に含まれないものはどれでしょうか。

- 1 文章生成
- 2 画像生成
- 3 動画生成
- 4 検索結果の順位決定

問3. GPT-4.5、Gemini、Claude などの最新モデルに関する説明として誤っているものはどれでしょうか。

- 1 GPT-4.5 は処理速度と精度が向上し、より長い文脈を理解できる
- 2 Gemini はマルチモーダル（テキスト・画像・音声）対応を強化している
- 3 Claude は倫理性を重視し、信頼性の高い対話が可能である
- 4 これらのモデルはビジネス利用は限定的で、教育現場では利用されていない

問4. スライドで示された生成AI市場の成長予測に関して正しい記述はどれでしょうか。

- 1 2025年にはまったく伸びず、横ばいで推移すると予想されている
- 2 2025年には数十兆円規模に達すると予測されている
- 3 主要企業は投資を控えており、導入は進んでいない
- 4 データプライバシーや著作権などの課題は存在しない

**問5. 生成AIがもたらすビジネス変革として、スライドに記載されている内容に最も近いものはどれでしょうか。**

- 1 完全自動化によりすべての人間の業務が不要になる
- 2 従業員の手作業を削減しながら質の高いサービスを提供し、競争力を高める
- 3 AIの導入はコスト面で不利になるため導入は推奨されない
- 4 業務効率化は期待できないが話題性は高い

**問6. 生成AIがマーケティング・広告分野にもたらす代表的なメリットとして、最も適切なものはどれでしょうか。**

- 1 広告コピーを統一するため、多様なターゲットへの最適化が困難になる
- 2 画像生成AIにより、バナー広告のデザインを自動生成できる
- 3 A/Bテストには対応できない
- 4 SNS投稿を減らすことでコスト削減につなげる

**問7. カスタマーサポート分野における生成AI活用の利点としてスライドに記載されているものはどれでしょうか。**

- 1 マニュアル作成が不要になり対応コストが増大する
- 2 24時間対応の顧客サポート実現と対応コスト削減
- 3 問い合わせ履歴の分析は人間の手作業でしか対応できない
- 4 ルールベース型よりも柔軟性が低下する

**問8. スライドで紹介されている小売・EC業界での生成AI活用事例として最も適切なものはどれでしょうか。**

- 1 大量の商品説明文を全て人力で作成し、AIは監修だけを担当する
- 2 AIが商品説明文を自動生成してSEO対策に貢献する
- 3 レコメンド機能はAIに向いていないため活用できない
- 4 顧客の購買履歴を無視した一律の提案を行う

**問9. 生成AIの導入において注意すべき課題・リスクとしてスライドの内容に合致するものはどれでしょうか。**

- 1 精度が100%保証されているため誤情報のリスクはほぼない
- 2 著作権や個人情報などの倫理・法規制の対応が重要になる
- 3 データプライバシーはAIには不要な概念である
- 4 人的監視を行うとAIの学習精度が下がるため禁止されている

**問10. 生成AI導入に向けたポイントや将来展望に関する記述として正しいものはどれでしょうか。**

- 1 PoC（概念実証）を行わず、いきなり大規模導入するのが推奨される
- 2 データの品質やプライバシー管理はあまり重視されない
- 3 人材育成（プロンプトエンジニアリングなど）が重要になる
- 4 AGI（汎用人工知能）の実現可能性は否定されている



## 第2章 生成AIツールの種類と選定基準

最適なツールを選び、活用するためのポイント

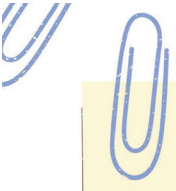


### 生成AIとは、

人工知能がテキスト・画像などの新しいコンテンツを自動生成する技術です。

活用シーンは、文章作成、デザイン支援、プログラミング補助、広告制作、動画編集など多岐にわたります。  
市場は急成長しており、企業の業務効率化やクリエイティブ領域の革新が進んでいます。  
適切なツールを選び、効果的に活用することが重要です。





生成AIツールは、用途に応じて大きく4種類に分類されます。

1. テキスト生成は、ChatGPTやClaudeなどがあり、文章作成や対話に活用されます。
2. 画像生成は、DALL-EやStable Diffusionが代表的で、デザインや広告に役立ちます。
3. コード生成では、GitHub Copilotがプログラミングの効率化を支援します。
4. 動画・音声生成では、RunwayやElevenLabsが動画編集やナレーション作成に利用されます。

選定時は、精度・操作性・コスト・用途適合性を考慮することが重要です。

## ChatGPT



OpenAIが開発した高度な自然言語処理を備えた会話型AIです。  
人間のように自然な文章を生成し、  
質問応答や文章作成をサポートします。

活用例として、ブログ記事やレポートの執筆、  
カスタマーサポートの自動化、  
アイデア出しやブレインストーミングなどがあります。

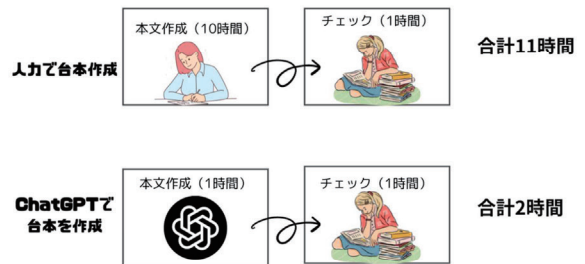
適切に活用することで、業務効率化や創造的な作業を支援できます。



## ChatGPTのライディング活用

例えば、ユーチューブ台本を全て  
人力で作っていく場合は、  
本文作成に10時間くらいかかります。  
その後にチェックするのに約1時間かかります。  
合計で約11時間かかります。  
ChatGPTで台本を作成する場合は  
本文作成に1時間チェックするのに  
約2時間で終わります。  
無駄な作業時間が80%くらい削減できます！  
作業の割合がChatGPTが80%  
自力で20%の作業分担のイメージです。

### 例 シナリオ作成



しかし、こんな悩みはありませんか？

ChatGPTを使うと作業がかなり効率化できるのが分かったが、、、、、、

ChatGPTの回答精度が低すぎて、全然使えない……………

ChatGPTがどうやって回答するのか仕組みの部分を知ることによって解決できることが多いです

ChatGPTはどうやって回答を出しているのか？



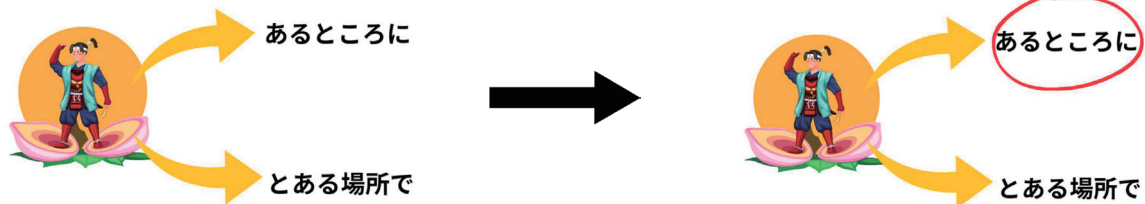


結論 確率的にありそうな文字を繋げて出力しています。  
確率的にありそうな文字を繋げるという言葉がよくわからないので  
実際の例を挙げながら解説していききたいと思います。



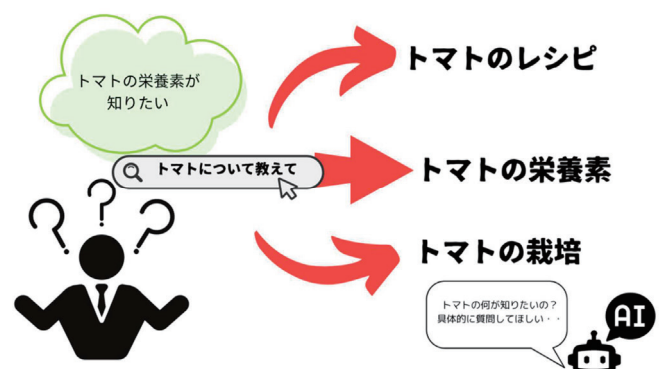
この時に大切なのは確率を上げるありそうな文字を選んでいくことです！  
ChatGPTは桃太郎のあらすじを教えてくれるのですが  
「昔々」と出力したあと、いくつかの選択肢を頭の中に用意します。  
そして、その中から確率的に「あるところに」を選択するといった具合です。

このように【あるところに】にこちらのほうで  
確率的にあると選んでいきます。



しかし、この仕組みにより、ChatGPTはこのような問題を持ちます。

例えばこの人がトマトの栄養素について  
知りたいと思っています。  
【トマトについて教えて】とざっくりな質問をします。  
そうすると、ChatGPTはトマトの栄養素が知りたいのか？  
レシピが知りたいのか？トマトの栽培方法が知りたいのか？  
？  
様々な選択肢を持ちます。  
この中で1つを選ぶこともありますし  
全部を説明することもあります。  
ただ、この人は栄養素を知りたいので  
栄養素について深く教えてほしいと思っています。  
ChatGPTで検索していると、こちらが期待している回答と  
実際に得られる回答がまったく違う場合があります。  
結果として、欲しい情報が手に入らないことがあるのです。  
。



ChatPTの回答精度は人間の質問精度に比例します。

例えば質問の回答範囲が広い場合は、回答の選択肢が広すぎて間違えます。

ChatGPTの選択肢が多いと人間の意向に沿った回答を返すことが難しいです。

回答範囲が絞ってある質問をChatGPTに送った場合は、回答の選択肢が絞られているので明確な回答が来やすいです。

質問の回答範囲を絞ることが重要だと分かったと思います。

自分が知りたい回答をChatGPTに出力してもらうには【プロンプト】というものが大切になってきます！

### Chat GPTの回答精度＝人間の質問精度 に比例

質問の回答範囲が広い

回答の選択肢が広いと  
違う答えが返ってくる  
可能性が高い



Or

質問の回答範囲が狭い

回答の選択肢が狭いと  
知りたい答えが返ってくる



## Claude



Anthropicが開発した生成AIで、  
安全性を重視した高度な文章生成が特徴です。  
倫理的な配慮が求められる場面でも信頼性の高い回答を提供し、  
誤情報のリスクを低減します。  
対話型アシスタントとしての活用に優れ、  
カスタマーサポートやコンサルティング業務、  
論理的な文章作成にも適しています。

高度な言語理解能力を活かし、幅広い業務での活用が可能です。

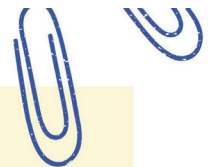


## **DALL・E**

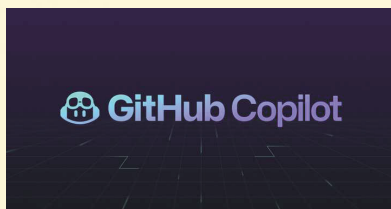
OpenAIが開発した高精度な画像生成AIで、リアルで独創的なビジュアルを作成できます。広告ビジュアルやプロトタイピングなど、マーケティングやデザイン分野で活用されています。ChatGPT内に連携しておりスムーズに使いやすいのが特徴です。

## **Stable Diffusion**

Stability AIが開発したオープンソースの画像生成AIで、カスタマイズ性が高く、自由に調整可能です。アート制作やデザイン補助に適しており、クリエイター向けのツールとして人気があります。



## **GitHub Copilot**



GitHubがOpenAIの技術を活用して開発したコード生成AIです。

プログラマーがコードを記述する際に、適切な補完や提案を行い、ソフトウェア開発の効率化を支援します。

初心者にとっても、適切なコード例を提示することで学習をサポートします。特に関数の自動補完、エラーハンドリング、フレームワークの活用します。



## Runway

映像編集やエフェクト生成に特化した動画生成AIツールで、簡単な操作で映像制作や広告動画の作成が可能です。

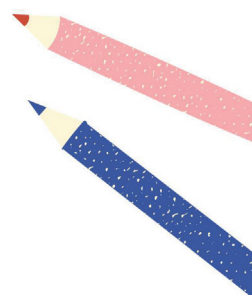
AIによる自動編集機能やスタイル適用が特徴で、クリエイターの作業負担を軽減します。



## Eleven Labs

高品質な音声合成を提供する音声生成AIで、自然なナレーションやボイスオーバーを生成できます。

多言語対応や感情表現が可能で、動画制作やオーディオコンテンツの品質向上に貢献します。



## 生成AIの選定について

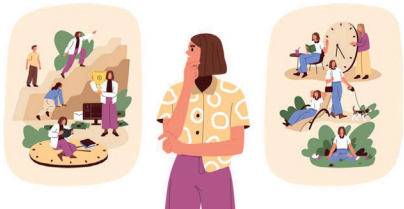


生成AIツールを選定する際は、目的・用途に適しているかが最も重要です。例えば、文章作成にはChatGPT、画像生成にはDALL-Eなど、目的に応じたツールを選びましょう。

次に、生成精度やクオリティも考慮すべき点です。出力の自然さや正確性が求められる場面では、高精度なツールを選択する必要があります。また、学習データの信頼性も重要で、誤情報や偏りを含まない安全なデータを用いたAIを選ぶことで、適切な活用が可能になります。



操作性と導入のしやすさも重要です。  
直感的なUIやプラグイン対応の有無によって、  
業務への適用スピードが変わります。



次に、コストの比較も必要です。  
無料版は機能が制限されることが多く、  
有料版では精度やカスタマイズ性が向上するため、  
用途に応じた選択が求められます。



さらに、倫理・セキュリティ面の配慮も不可欠で、  
データの扱いや著作権問題、誤情報のリスクを考慮し、  
安全に利用できるツールを選ぶことが大切です。

## 活用例

### 企業

ChatGPTを活用した  
自動応答システムや  
DALL-Eを用いた  
広告ビジュアル作成など、  
業務効率化や  
マーケティング強化に  
役立っています。

### クリエイター

Stable Diffusionで  
アート制作を行い、  
ElevenLabsで  
ナレーションを  
作成するなど、  
創作活動を支援。

### エンジニア

GitHub Copilotを活用し、  
コードの自動生成や  
バグ修正を行い、  
開発スピードを  
向上させています。

## まとめ



生成AI技術は今後、  
精度向上、リアルタイム処理、  
高度なカスタマイズが進み、  
さらに多様な分野での活用が期待されています。

企業や個人がより効率的に作業できるようになり、  
教育・医療・エンタメなどでの応用も広がるでしょう。

しかし、誤情報の拡散や著作権問題など、  
倫理的な課題やセキュリティ面には注意が必要です。

活用を検討する際は、公式ドキュメントや  
専門家の情報を参考にすることが重要です。  
推奨リソースとして、  
OpenAIやStability AIの公式サイトなどがあります。

## 2章 確認テスト

問1. 「生成AI」とは、どのような技術を指すでしょうか？

- 1.大量のデータを分類するAI技術
- 2.文章・画像など新しいコンテンツを自動生成するAI技術
- 3.インターネット上の情報を検索して並べ替える技術
- 4.リアルタイムに翻訳する技術

問2. 生成AIツールを大きく4種類に分類したとき該当しないものは次のうちどれでしょうか？

- 1.テキスト生成
- 2.画像生成
- 3.問題生成
- 4.コード生成



問3. ChatGPTを使ったYouTube台本作成の例で、人力のみで台本を作る場合と比べて、ChatGPT活用時には作業時間がどのように変化すると紹介されていますか？

- 1.約10%増える
- 2.約30%減少する
- 3.約50%減少する
- 4.約80%減少する

問4. ChatGPTの回答精度が低いと感じる主な原因として、誤りが含まれる選択肢はどれでしょうか？

- 1.ChatGPTが確率的に文字を選んで出力しているから
- 2.質問の範囲が広すぎると、的外れになる可能性があるから
- 3.ユーザーが望む情報を明確に示さない場合が多いから
- 4.ChatGPTが常に最新の事実のみを参照して回答しているから

問5. ChatGPTが「確率的にありそうな文字をつなげて出力する」という仕組みを理解することで、どのような問題が解決しやすくなると説明されていますか？

- 1.回答の精度が急激に向上し、事実誤認が一切なくなる
- 2.曖昧な質問を明確にし、的外れな回答を減らせる
- 3.動作速度が飛躍的に上がり、リアルタイム処理が可能になる
- 4.ChatGPTの開発元を変更しなくても最新データを使えるようになる

問6. Claude（クロード）の特徴として、最も正しい説明はどれでしょうか？

- 1.オープンソースのコード生成AIであり、GitHub Copilotの代替として開発された
- 2.安全性を重視し、誤情報リスクを低減した高度な文章生成に強みを持つ
- 3.画像生成とテキスト生成を同時に処理できるが、対話機能はない
- 4.オンライン翻訳に特化しており、多言語の翻訳精度が最も高い

問7. OpenAIが開発した高精度な画像生成AI「DALL・E」と、Stability AIが開発した「Stable Diffusion」の違いについて、正しい説明はどれでしょうか？

- 1.どちらもオープンソースであり、自由にカスタマイズが可能
- 2.DALL・Eはテキスト生成のみ対応し、Stable Diffusionは画像生成のみ対応する
- 3.DALL・EはChatGPTとの連携がスムーズで、Stable Diffusionはカスタマイズ性が高い
- 4.DALL・Eは無料版が存在しないが、Stable Diffusionは完全無料で提供されている

問8. GitHub Copilotについて誤っている記述はどれでしょうか？

- 1.OpenAIの技術を活用したコード生成AIである
- 2.プログラマーがコードを記述する際に補完や提案を行う
- 3.初心者への学習サポートとしての機能は期待できない
- 4.ソフトウェア開発の効率化を支援する

問9. 次のうち、動画や音声の生成で活用されるAIツールの組み合わせとして正しいのはどれでしょうか？

- 1.Runway と ElevenLabs
- 2.GitHub Copilot と Claude
- 3.DALL・E と Stable Diffusion
- 4.ChatGPT と DALL・E

問10. 生成AIツールを選定するときに最も重要なポイントとしてスライド14や15で強調されていることは何でしょうか？

- 1.一番人気のあるツールを選ぶこと
- 2.用途・目的に適合するか、精度や安全性が十分かを考慮すること
- 3.すべて有料版を導入しておけば間違いがないこと
- 4.導入コストを最優先で抑えること





## 第3章 プロンプトエンジニアリング の基礎と応用

効果的なプロンプト設計と高度な手法



プロンプトエンジニアリングは、AI（LLM）の性能を最大限に引き出すための技術であり、適切なプロンプト設計が応答の精度や品質に大きく影響します。

具体的な指示や制約を加えることで、より目的に合った結果を得ることが可能です。



応用範囲は広く、ビジネスでは業務効率化、教育では学習支援、研究ではデータ解析の最適化に活用されます。

適切なプロンプト設計を学ぶことで、AIの活用効果を大きく向上させることができます。

#命令書:

あなたは、{text}です。

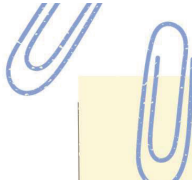
以下の制約条件と入力文をもとに、最高の結果を出力してください。

#制約条件:

・文字数は{text}

・ {text}





生成AIを使いこなす上で  
避けては通れないプロンプト。  
プロンプトを自分で考えるのなんて無理かも・・・と  
困っているユーザーも多いかと思います。

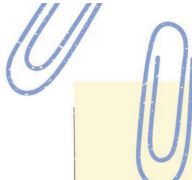
今回は、noteのCXOである  
深津貴之さんによって考案された  
ChatGPTをより効率的かつ  
精度高く利用するために  
設計されたフレームワーク  
「深津式プロンプト」に  
ついて詳細に解説していきます。

# 命令書:  
あなたは{プロの編集者}です。  
以下の制約条件と入力文をもとに{最高の要約}を出力してください。

# 制約条件:  
• 文字数は300文字程度。  
• 小学生にもわかりやすく。  
• 重要なキーワードを取り残さない。  
• 文章を簡潔に。

# 入力文:  
{入力文章}

# 出力文:

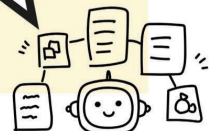


「深津式プロンプト」とは、Note株式会社のCXO、深津貴之氏が開発したChatGPT向けのフレームワークです。  
このフレームワークは、ChatGPTをより効率的かつ精度高く利用するために設計されています。  
この形式は制約条件やタスクを明確にすることが非常に重要となってきます。細かく見ていきましょう！

# 命令書:  
あなたは、{text}です。  
以下の制約条件と入力文をもとに、最高の結果を出力してください。

# 制約条件:  
• 文字数は{text}  
• {text}

先ほどあげた上記のテンプレートは、{text}の  
部分を書き換えるだけで多くのタスク、  
多様なシナリオで簡単に適用できます。  
プロンプト形式は特定の  
キーワードやフレーズに焦点を当て、  
質の高いコンテンツを生成できます。



## ✔ 深津式プロンプトのポイント

深津式プロンプトは上記の {text} に自身で文を埋め込むことで完成します。  
しかし、その {text} の内容によっては期待した回答が得られない場合もあると思います。  
この深津式プロンプトの効果を最大限に発揮するには  
以下の5つのポイントを押さえて {text} を作成するとよいでしょう。

### 重要ポイント！

- ・立場を明確にする
- ・入力文から、内容を明確にする
- ・出力文から、出力の形式を明確にする
- ・条件は、箇条書きで簡潔かつ明快にする。
- ・様々なワードで、出力内容をコントロールする

効果的なプロンプト設計には、明確で具体的な指示が不可欠です。

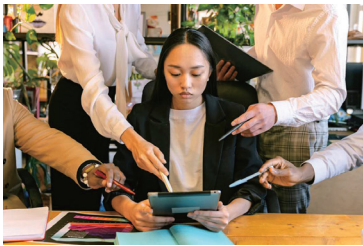
例えば、「要約して」ではなく「100文字以内で要約して」と指示することで、出力の精度が向上します。

また、「英語で」や「ビジネス文書風に」などの詳細情報を加えると、目的に合った応答が得られます。

さらに、「箇条書きで」「JSON形式で」など、期待するフォーマットを明示することで、統一性のある出力を得ることが可能になります。



## 効果的なプロンプト設計手法①



プロンプト設計では、曖昧な指示を避け、具体的に詳細を指定することが重要です。

例えば、「会議の内容をまとめて」とだけ指示すると、情報の取捨選択がAIに依存し、意図しない要約が生成される可能性があります。



一方、「本日10時のマーケティング会議の議事録を、300文字以内で要約して」と指示すれば、対象・目的・制限が明確になり、適切な応答が得られます。

このような具体化が、AIの精度向上に不可欠です。

## 効果的なプロンプト設計手法②

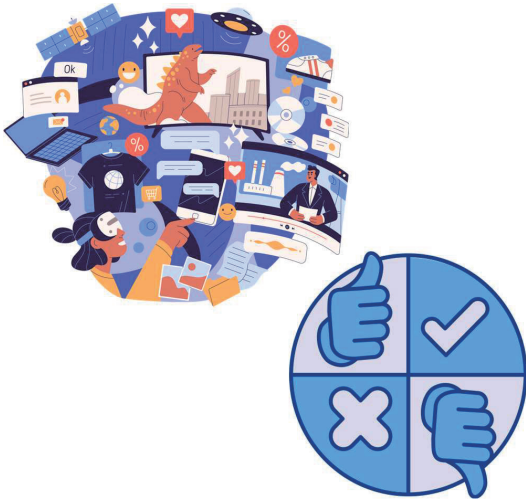


複雑なタスクを小さなステップに分割することで、AIの応答精度を向上させることができます。

例えば、「この論文をわかりやすく要約して」と指示すると、情報の選択や構成がAIに委ねられ、期待通りの結果が得られない可能性があります。

一方で、「まず論文の目的を説明し、次に主要な結論を述べ、最後に応用例を挙げて」と具体的な順序を示すことで、段階的かつ論理的な出力が得られ、精度の高い要約が可能になります。

## 効果的なプロンプト設計手法③



効果的なプロンプト設計には、適切な制約を設けることも重要です。

例えば、「このデータについて分析して」と指示すると、AIの解釈に依存し、目的に沿わない結果が得られる可能性があります。

一方、「このデータを用いて売上のトレンドを折れ線グラフで示し、主要な要因を3つ挙げて」と具体的な制約を設定すると、出力が明確になり、精度の高い分析結果を得ることができます。

制約を活用することで、より目的に即した有益な情報を引き出せます。

## 高度なプロンプト手法①

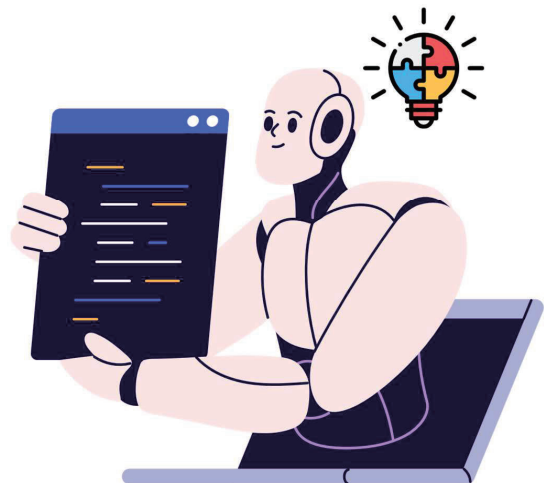
### Chain of Thought (CoT)

AIの回答精度を向上させるために、思考プロセスを分解させる手法が有効です。

例えば、「この数学の問題を解いて」と指示すると、AIは即座に答えを出しますが、計算過程が不明瞭で誤りが生じる可能性があります。

一方、「この問題をステップごとに考えて」と指示すると、解法の流れを順番に説明しながら回答するため、正確性が向上し、より理解しやすい結果が得られます。

この手法は、論理的思考が求められる場面で特に有効です。



## 高度なプロンプト手法②

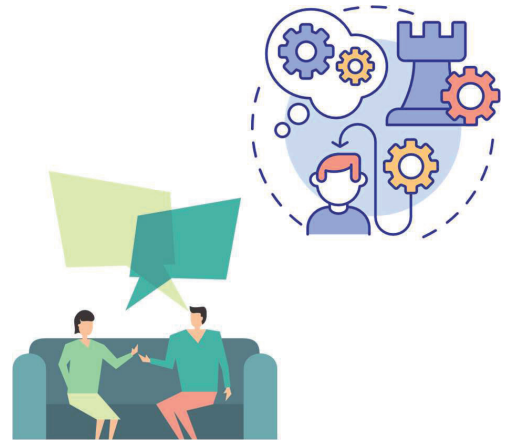
### ReAct

推論（Reasoning）と行動（Action）を組み合わせる手法は、AIの応答精度と実用性を向上させます。

例えば、AIがデータを分析し、  
売上の低下原因を特定したうえで、改善策を提案することで、  
より実践的な活用が可能になります。

また、チャットボットが会話内容を分析し、  
適切な質問を生成することで、自然な対話が実現します。

この手法により、AIは単なる情報提供者ではなく、  
問題解決を支援するインタラクティブなパートナーとなります。



## ビジネスシナリオでの活用①

### カスタマーサポート

プロンプトエンジニアリングは、  
カスタマーサポートにおける問い合わせ対応の  
最適化にも活用できます。

例えば、「注文のキャンセル方法を教えてください」  
という質問に対し、  
AIが「注文履歴から該当商品を選び、  
『キャンセル』ボタンを押してください」  
と具体的な手順を提示することで、  
迅速かつ確かな対応が可能になります。

適切なプロンプト設計により、  
ユーザーの疑問を素早く解決し、  
満足度の向上や業務効率化に貢献できます。





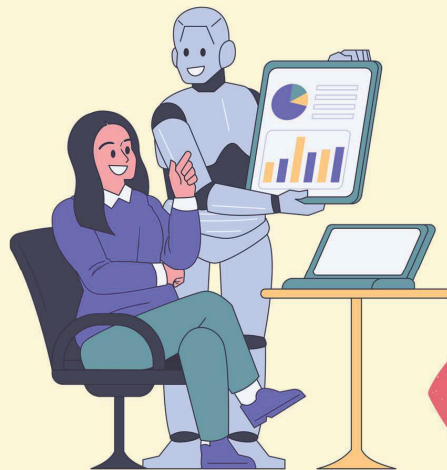
## ビジネスシナリオでの活用②

### マーケティング

プロンプトエンジニアリングは、ターゲットに合わせた広告文の自動生成にも活用できます。

例えば、「20代向けにカジュアルなトーンで、新商品の紹介文を作成して」と指示すると、AIは「この春登場！トレンド感たっぷりの新作スニーカー！」のようなターゲット層に響く広告文を作成できます。

適切なプロンプト設計により、ブランドイメージに合った魅力的なコピーを自動生成でき、マーケティングの効率化や広告効果の向上が期待できます。



## ビジネスシナリオでの活用③

### データ分析

プロンプトエンジニアリングは、データの要約やトレンド分析にも有効です。

例えば、「過去6か月の売上データを分析し、増減の理由を説明して」と指示すると、AIは「7月はキャンペーン効果で売上が増加、9月は季節要因で減少」といった具体的な分析結果を提示できます。

適切なプロンプト設計により、データの傾向を正確に捉え、意思決定をサポートする情報を迅速に提供できるため、ビジネスの戦略立案に役立ちます。



## まとめ



プロンプト設計の基本原則を活用し、適切な手法を適用することで、AIの応答精度を向上させることができます。

さらに、Chain of Thought や ReAct などの高度な技術を取り入れることで、より効果的な結果が得られます。

ビジネスシナリオに応じた実践を行い、実際にプロンプトを試しながら改善点を見つけることが重要です。

過去のプロンプトを分析し、より最適な設計を追求することで、AIの活用価値を最大限に引き出せます。

## 第3章 確認テスト

問1.プロンプトエンジニアリングとは、主に何を目的とした技術でしょうか？

- A. AI（LLM）の性能を最大限に引き出すための技術
- B. 人間同士の会話を記録するための技術
- C. 自動的にデータを削除するための技術
- D. コンピューターウイルスを検出するための技術

問2.深津式プロンプトの主な特徴は何でしょうか？

- A. ChatGPTにランダムな質問を投げるテンプレート
- B. ChatGPTをより効率的かつ精度高く活用するためのフレームワーク
- C. ChatGPTが生成する内容をすべて日本語に翻訳する仕組み
- D. ChatGPTの回答を限定してしまうために使用するフォーマット



**問3.深津式プロンプトの効果を高めるためのポイントとして、誤っているものはどれでしょうか？**

- A. 立場を明確にする
- B. 条件を箇条書きで簡潔に示す
- C. 出力の形式をはっきり指定する
- D. あいまいな指示でAI任せにする

**問4.以下のうち、より具体的なプロンプト設計のメリットとして最も適切なものはどれでしょうか？**

- A. AIの自由度が下がり、回答があいまいになる
- B. AIの情報処理負荷が増えるため、回答速度が低下する
- C. 出力内容に一貫性が生まれ、意図した情報を得やすくなる
- D. AIが自由に判断するため、回答内容が完全にランダム化する

**問5.効果的なプロンプト設計手法に関する説明として正しいものはどれでしょうか？**

- A. 複雑なタスクはできるだけまとめて一度に指示する方がよい
- B. 明確な制約を設定すると、AIが混乱しやすくなる
- C. 出力フォーマットを指定すると、回答の統一性を高められる
- D. プロンプトは短ければ短いほど良い

**問6.Chain of Thought（CoT）の主な利点として最も適切な説明はどれでしょうか？**

- A. AIが思考過程を省略して、回答を一瞬で生成できるようになる
- B. AIの思考プロセスを段階的に示すことで、回答の正確性や理解度が上がる
- C. AIが質問を無視して別の話題に切り替える
- D. AIの応答をすべて画像形式で出力する

問7.ReAct手法とは何を組み合わせたアプローチでしょうか？

- A. Reasoning（推論）とAction（行動）
- B. Review（再検討）とAction（行動）
- C. Reaction（反応）とActivity（活動）
- D. Revolution（変革）とAction（行動）

問8.ビジネスシナリオにおいて、プロンプトエンジニアリングの活用が特に効果を発揮する例として不適切なものはどれでしょうか？

- A. カスタマーサポートでの問い合わせ対応
- B. ターゲット別の広告文自動生成
- C. 過去の売上データの要約やトレンド分析
- D. 社内ネットワークのハードウェア設定を一括変更する

問9.「このデータについて分析して」と曖昧に指示するのではなく、「このデータを用いて売上のトレンドを折れ線グラフで示し、主要な要因を3つ挙げて」と具体的に指示するメリットは何でしょうか？

- A. AIの自由度が制限され、回答が得られなくなる
- B. 求める出力が明確になり、目的に即した分析結果を得やすくなる
- C. AIが雑談モードになり、回答の幅が広がる
- D. データ入力の量が減るため、メモリを節約できる

問10.プロンプト設計を改善するための最も重要な取り組みはどれでしょうか？

- A. 過去のプロンプトとAIの回答を振り返り、最適化を重ねる
- B. 成功したプロンプトは二度と変更しない
- C. プロンプトは常に長文化して、細かく指示しすぎる
- D. AIの回答をそのまま信用して修正しない

# 第4章 テキスト生成AIの 業務活用

業務効率化と自動化の新時代

テキスト生成AIは、  
AIが自然言語を生成する技術であり、  
業務の効率化や自動化に貢献します。

代表的なツールとして、  
ChatGPT、Claude、Geminiなどがあり、  
レポート作成やカスタマーサポートなど  
幅広い分野で活用されています。

近年、AIの精度向上や  
ビジネス環境のデジタル化が進み、  
企業での導入が加速しています。

これにより、人的コスト削減や迅速な情報提供が  
可能になり、業務の最適化が期待されています。



## テキスト生成AIの基本機能

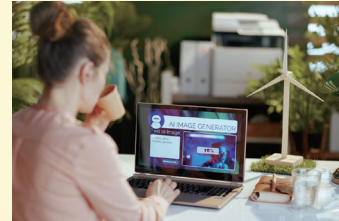
テキスト生成AIには、業務効率化を支援する多様な機能があります。

指定したテーマに基づくテキスト生成では、レポートやメールの作成が可能です。

要約機能は、長文を短く要点を整理し、情報伝達をスムーズにします。

翻訳機能により、多言語対応が容易になり、グローバルな業務にも活用可能です。

さらに、校正・添削機能を使えば、文法ミスの修正や適切な表現への改善が行え、品質の高い文書作成が実現できます。



## 文書作成の自動化とは？

テキスト生成AIを活用することで、業務に必要な文書作成を自動化し、効率化を図ることができます。

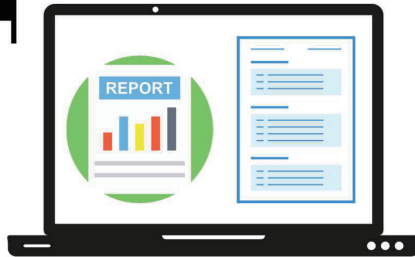
AIによる文書作成のメリットとして、作業時間の短縮、文章の品質の均一化、従業員の負担軽減が挙げられます。

具体的な活用シーンとしては、レポートの自動作成、会議の議事録作成、定型メールの作成などがあり、業務の迅速化と精度向上に貢献します。

適切なツール選定と運用により、さらなる業務効率化が可能です。



## 活用例①：レポート作成の自動化



テキスト生成AIを活用することで、  
レポート作成の大幅な効率化が可能です。

例えば、データ分析結果の要約機能により、  
膨大な情報から重要なポイントを抽出し、  
簡潔にまとめることができます。

さらに、AIは適切な構成を提案し、  
自動生成するため、  
レポートの一貫性と品質を向上させます。

具体的な活用例として、マーケティングレポートや  
営業報告書の自動作成が挙げられ、  
迅速かつ正確な情報共有が可能になります。

## 活用例②：議事録作成の自動化



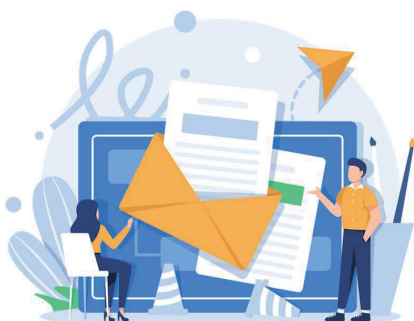
テキスト生成AIを活用することで、  
会議の議事録作成を効率化できます。

AIは会議音声の文字起こしを行い、  
発言内容を自動で記録します。  
さらに、要点整理や重要ポイントの抽出機能により、  
冗長な部分を省き、簡潔な議事録を作成できます。

これにより、会議後の記録作業の負担が軽減され、  
迅速な情報共有が可能になります。

具体的な事例として、  
社内会議やクライアントミーティングなど、  
多くのビジネスシーンで活用されています。

## 活用例③：メール作成の自動化



テキスト生成AIを活用することで、  
定型メールの作成を自動化し、  
業務の効率を向上させることができます。

例えば、お礼メールや報告メールなどの  
定型文を自動作成し、手間を省くことが可能です。  
さらに、AIは文面の最適化を行い、  
適切なトーンや表現を調整することで、  
より効果的なコミュニケーションを実現します。

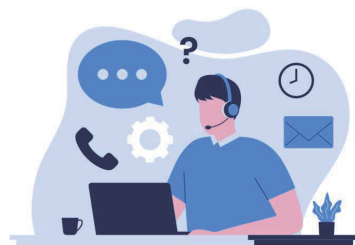
具体的な活用事例として、  
問い合わせ対応や営業メールの作成があり、  
迅速かつ一貫性のある対応が可能になります。

## FAQやカスタマーサポートの自動応答

FAQやカスタマーサポートの対応を自動化し、  
業務の効率化が可能になります。

AIチャットボットの仕組みを活用すると、  
顧客からの問い合わせに対し、  
即座に適切な回答を提供できます。  
これにより、対応の迅速化やコスト削減が実現できます。

特にEコマースやコールセンターでは、  
AIがよくある質問に対応することで、  
オペレーターの負担を軽減し、  
より高度な対応に集中できる環境を作ることができます。





## AIを活用したFAQシステム

テキスト生成AIを活用したFAQシステムは、よくある質問への自動対応を行い、迅速で一貫性のある回答を提供します。

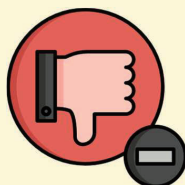
AIはユーザーの質問パターンを学習し、より適切な回答を生成することで、サポート業務の負担を軽減します。企業のヘルプデスクや社内ナレッジ共有に導入することで、社員や顧客が必要な情報に素早くアクセスでき、業務の効率化につながります。

特に大規模な企業では、サポート業務の自動化が大きなメリットとなります。



## AI活用のメリットと課題

業務の効率化が進み、時間とコストの削減が可能になります。また、AIは一貫性のある対応を提供し、人的ミスを減らすことができます。さらに、24時間対応が可能のため、顧客満足度の向上にもつながります。



正確性の確保が課題となり、誤情報のリスクを管理する必要があります。また、セキュリティとプライバシーの保護も重要であり、人間とAIの適切な役割分担が求められます。





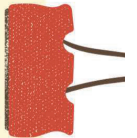
## AI導入のポイント

テキスト生成AIを業務に活用する際は、  
まず目的と業務プロセスを明確化することが重要です。

どの業務をAIで効率化するかを明確にし、  
適用範囲を定めることで導入効果を最大化できます。

次に、適切なツールの選定を行い、  
業務ニーズに合ったAIを活用することが成功の鍵となります。

さらに、運用ルールの策定とモニタリングを徹底し、  
AIの精度を継続的に向上させながら、  
安全かつ効果的な運用を実現することが重要です。



## まとめと今後の展望

テキスト生成AIは、文書作成の自動化や  
カスタマーサポートの効率化など、  
業務の多様な場面で活用が進んでいます。

今後は、さらに高度な業務の自動化や、  
AIと人間が連携して働く仕組みが求められます。

AIの精度向上により、単純作業の削減だけでなく、  
業務効率化の次のステップとして、  
クリエイティブな業務支援や意思決定の補助も可能になります。

AIとの共存により、新たな働き方が生まれ、  
より柔軟で生産性の高い職場環境が実現されるでしょう。



## 第4章 確認テスト

問1. テキスト生成AIの代表的なツールとして、正しくないものはどれでしょうか？

- 1.ChatGPT
- 2.Claude
- 3.Gemini
- 4.Excel

問2. テキスト生成AIの利用が加速している主な要因として、最も適切なものはどれでしょうか？

- 1.ビジネス環境のデジタル化とAIの精度向上
- 2.人口の減少とAIツールの高額化
- 3.国際的な法規制の強化
- 4.インターネットの利用者数減少

問3. テキスト生成AIの基本機能として誤っているものはどれでしょうか？

- 1.要約機能
- 2.翻訳機能
- 3.校正・添削機能
- 4.会計監査機能

問4. テキスト生成AIを使った文書作成の自動化による主なメリットとして最も適切なものはどれでしょうか？

- 1.作業時間の短縮と品質の均一化
- 2.作成した文書の著作権放棄
- 3.電力消費の削減
- 4.海外企業との競争力低下

**問5. レポート作成の自動化において、テキスト生成AIが果たす役割として適切なものはどれでしょうか？**

1. レポートの自動作成や一貫性の向上
2. レポートの人手による大幅な加筆
3. レポートのデザイン（レイアウト）の自動生成のみ
4. レポート内容の機密保持

**問6. 会議の議事録作成にテキスト生成AIを活用する際の主なメリットとして、適切なものはどれでしょうか？**

1. 会議の進行そのものを自動化する
2. 会議音声の文字起こしと要点整理が可能になる
3. 議事録を紙媒体のみで管理できる
4. 会議参加者の発言をすべて削除し要約する

**問7. テキスト生成AIを使った定型メールの自動化について、正しい説明はどれでしょうか？**

1. お礼メールや報告メールをAIが作成し、トーンや表現を最適化してくれる
2. 重要な顧客へのメールはAIでは作成できない
3. AIが作成したメールは必ず文法ミスが含まれる
4. AIは対応言語が一つに限定される

**問8. FAQやカスタマーサポートを自動化するメリットとして最も適切なものはどれでしょうか？**

1. 顧客対応時間を無制限に延長できる
2. よくある質問に即座に対応し、オペレーターの負担を軽減できる
3. AIチャットボットを導入すると、通信コストが増大する
4. 人間のオペレーターは不要になるため解雇が推奨される

**問9. テキスト生成AIの導入による課題として、最も適切なものはどれでしょうか？**

- 1.24時間運用が不可能である
- 2.AIの正確性や誤情報リスクへの対策が必要
- 3.一切のプライバシー保護対策が不要
- 4.一度導入すると精度が永続的に高いまま維持できる

**問10. テキスト生成AIを業務に導入する際のポイントとして、適切な説明はどれでしょうか？**

- 1.明確な目的と業務プロセスの整理が不要
- 2.適切なツールの選定と運用ルールの策定が重要
- 3.AIは一度導入すればアップデートやモニタリングは不要
- 4.AIの適用範囲は常に全業務に拡大するべき

# 第5章 画像・動画・音声生成 AIの活用

最新のAI技術でコンテンツ制作の革新

## 広告・マーケティング素材の作成（概要）

生成AIは広告・マーケティング分野で  
大きな変革をもたらしています。

AIを活用することで、バナー広告やSNS投稿用の画像・動画を  
迅速かつ効率的に制作でき、  
コスト削減と市場投入のスピード向上が実現します。

また、AIによるA/Bテストの最適化やターゲットに合わせた  
クリエイティブの自動生成も可能です。  
例えば、Coca-ColaやNikeはAIを活用した広告制作を行い、  
視覚的に魅力的なキャンペーンを展開しています。

これにより、マーケティング戦略の柔軟性が向上しています。



## 広告・マーケティング素材の作成（実践）

生成AIを活用することで、  
広告・マーケティング素材の制作が効率化されます。

AIを用いたバナーやポスターの作成では、ブランドイメージに  
合ったデザインを短時間で生成可能です。

また、SNS向けの画像や動画もAIが自動で最適化し、  
視聴者の関心を引くクリエイティブを制作できます。

さらに、AIはA/Bテストを活用し、  
異なるデザインの効果を分析しながら  
最も効果的な広告を自動選定することが可能です。  
これにより、広告運用の精度向上とコスト削減が実現します。



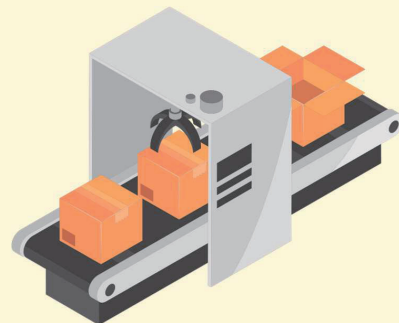
## プロダクトデザイン・コンセプトアートの生成（概要）

生成AIはプロダクトデザインやコンセプトアートの分野でも  
活用が進んでいます。

デザインの初期段階では、  
AIが膨大なアイデアを迅速に提案し、  
クリエイターの発想を広げる役割を果たします。

例えば、DALL-EやStable Diffusionを使えば、  
プロンプトから高品質なコンセプトアートを自動生成でき、  
デザイナーの作業時間を大幅に短縮可能です。

企業では、自動車やファッション、家電業界などでAIを活用し、  
試作段階のデザイン案を素早く可視化し、  
効率的な商品開発を実現しています。



## プロダクトデザイン・コンセプトアートの生成（実践）

生成AIを活用することで、プロダクトデザインやコンセプトアートの制作が大幅に効率化されます。

AIはスケッチやラフデザインの作成を支援し、デザイナーの発想を広げる役割を果たします。

さらに、3Dモデリング用のテクスチャやデザイン案をAIが自動生成し、試作段階の工数を削減できます。

プロトタイピングでは、AIを用いて複数のデザインバリエーションを短時間で作成し、迅速なフィードバックを得ることが可能です。

これにより、開発のスピードと品質が向上します。



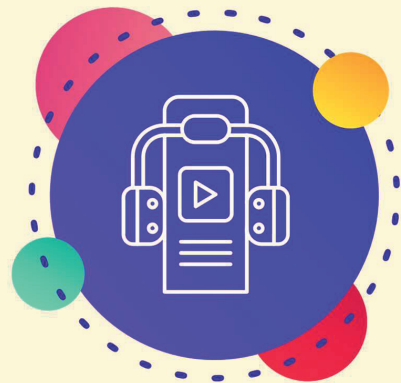
## 音声合成・ナレーション制作（概要）

音声生成AIは、テキストから自然な音声を生成する技術で、ナレーションや音声コンテンツ制作を効率化します。

AIの仕組みは、ディープラーニングを活用した音声合成技術で、高品質な発話をリアルタイムに生成可能です。

代表的なツールには、ElevenLabsやAmazon Pollyがあり、ナレーション、オーディオブック、カスタマーサポートなどに活用されています。

特に、動画制作やEラーニング、音声広告などの分野では、コスト削減や多言語対応が可能となり、業界全体での導入が進んでいます。





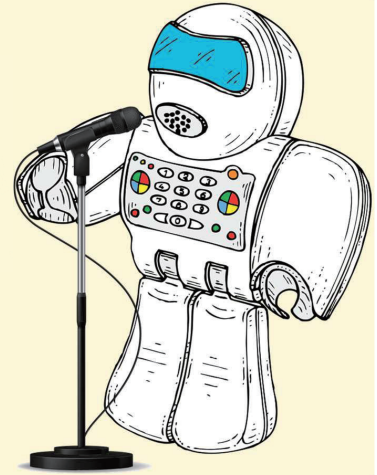
## 音声合成・ナレーション制作（実践）

音声合成AIを活用することで、ナレーション制作が効率化され、プロ品質の音声を迅速に作成できます。

テキストを入力するだけで自然な発話を生成でき、動画やEラーニング教材、音声広告に活用可能です。

さらに、多言語対応の音声生成により、グローバル市場向けのコンテンツ制作も容易になります。

音楽制作の分野では、ボーカロイドを活用した歌声の生成や、AIによる作曲支援が進んでおり、クリエイターの表現の幅を広げる新たなツールとして注目されています。



## 生成AI活用のメリットと課題



生成AIの活用には多くのメリットがあります。

例えば、従来の制作工程と比べてコストを大幅に削減でき、短時間で高品質なコンテンツを生成可能です。

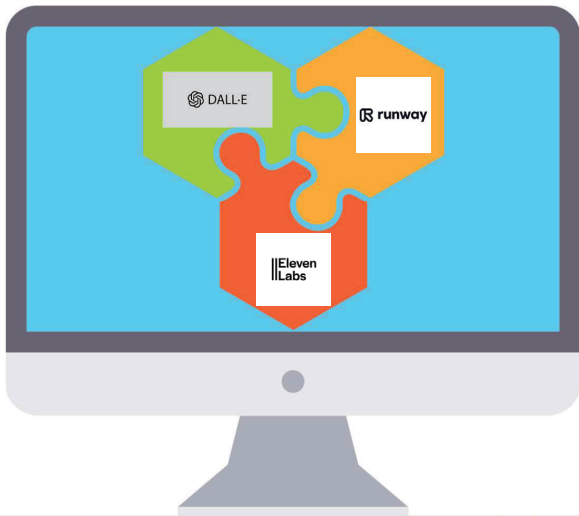
また、クリエイターがアイデアを素早く可視化できるため、創造性の向上にも寄与します。

一方で、著作権問題や品質管理の難しさ、AIによる倫理的リスクが課題として挙げられます。

特に、生成コンテンツの真正性や責任の所在が問題視されており、各国で法的規制の整備が進められています。

今後、適切なルール形成が重要となるでしょう。

## AIツールの選定と活用のポイント



生成AIを効果的に活用するには、  
目的に合ったツールの選定が重要です。

例えば、画像生成にはDALL-EやStable Diffusion、  
動画編集にはRunway、  
音声合成にはElevenLabsなどが適しています。

また、これらのツールを組み合わせることで、  
より高度なクリエイティブ制作が可能になります。

特に、AIの出力精度を高めるためには、  
適切なプロンプトの設計が不可欠です。

明確な指示や詳細な条件を設定することで、  
より意図に沿ったコンテンツを生成できるようになります。

## これからの生成AI活用戦略

生成AIの進化により、人間とAIが共創する  
新たなクリエイティブの形が生まれつつあります。

デザインやマーケティング、  
エンターテインメントなどの業界では、  
AIがアイデアの発案や効率化を支援し、  
人間が最終的な品質をコントロールする  
ハイブリッドな制作手法が主流になるでしょう。

また、AIを活用した新しいビジネスモデルも登場し、  
パーソナライズド広告や自動生成コンテンツによる  
収益化が加速しています。

今後、AIとの協働がクリエイティブ産業の競争力を  
左右する鍵となります。



## まとめ

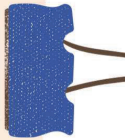


生成AIは、画像・動画・音声の制作を劇的に効率化し、  
広告・マーケティング、  
プロダクトデザイン、エンターテインメントなど  
多くの分野で活用が進んでいます。

本日は、AIを活用したクリエイティブ制作のメリットや  
実践方法、ツールの選定、活用戦略について学びました。

特に、AIと人間の共創により  
新たな表現の可能性が広がっており、  
今後の技術発展と法規制の動向にも注目が必要です。

生成AIを適切に活用し、  
クリエイティブの未来を切り拓いていきましょう。



## 第5章 確認テスト

問1. 第5章では、どのようなコンテンツ制作に関する生成AIの活用が主に解説されているでしょうか？

1. IoTデバイスのセンサー技術
2. 画像・動画・音声の生成
3. ソフトウェアテスト自動化
4. 機械翻訳の高度化

問2. 生成AIを広告・マーケティングに活用するメリットとして正しいものはどれでしょうか？

1. オペレーションの自動化による人材削減のみ
2. クラウドコストの削減と社内教育の簡略化
3. コスト削減と市場投入までのスピード向上
4. AIによる高額なライセンス費用の発生

**問3. Coca-ColaやNikeが生成AIを活用している主な目的は何でしょうか？**

1. バックオフィスの経理業務を自動化するため
2. 社員の勤怠管理をAIで最適化するため
3. ビジュアル的に魅力的な広告キャンペーンを展開するため
4. 在庫管理システムを導入し、物流を効率化するため

**問4. 生成AIを活用した広告制作において可能となる「A/Bテスト」の利点として適切なものはどれでしょうか？**

1. 自動的に画像生成が不要になる
2. 異なるデザインの効果を分析し、最適な広告を選定できる
3. AIのアルゴリズムを使い手入力を省略できる
4. セキュリティ面のリスクを排除できる

**問5. プロダクトデザイン・コンセプトアートの生成でAIが果たす役割として、正しいものはどれでしょうか？**

1. 社内コミュニケーションツールを開発する
2. 膨大なアイデアを迅速に提案し、デザイナーの発想を広げる
3. 完成品の製造と出荷を自動化する
4. ユーザーサポートのチャットボットを生成する

**問6. DALL・EやStable Diffusionを活用する利点として正しいものはどれでしょうか？**

1. 製造コストが増大する
2. デザイナーの作業時間を大幅に短縮できる
3. AI導入のための法規制が不要になる
4. デザインの自動評価機能は搭載されていない

問7. 音声合成AIに関して、ElevenLabsやAmazon Pollyが担う主要な役割は次のうちどれでしょうか？

1. テキスト情報から自然な音声を生成する
2. AIで生成された画像の真贋を判定する
3. データ分析の自動化とレポート作成を行う
4. プログラミング言語のコードを自動修正する

問8. 生成AI活用の課題として「示されていない」ものを選んでください。

1. 著作権問題
2. 品質管理の難しさ
3. AIによる倫理的リスク
4. コンテンツ生成コストの増加

問9. 画像生成」に適したAIツールではないものはどれでしょうか？

1. DALL・E
2. Stable Diffusion
3. Runway
4. Midjourney

問10. 今後の生成AI活用戦略として最も正しい展望はどれでしょうか？

1. AIがすべてのクリエイティブを代替し、人間の役割が消滅する
2. AIと人間が協働するハイブリッドな制作手法が主流になる
3. AIの進化は停滞し、既存技術の範囲でしか利用されない
4. 法規制により、生成AIは完全に利用禁止となる見込み



## 第6章 クラウドAIとAPIを 活用したサービス開発

OPENAI・GOOGLE GEMINI・AWS BEDROCK APIの活用法



クラウドAI APIの基本を理解し、  
OpenAI API・Google Gemini API・AWS  
Bedrock APIの特長を比較しながら、  
それぞれの強みを活かした活用方法を学び  
ます。

さらに、APIを用いたシステム連携や  
アプリ開発の実践的な手法について、  
具体的なコード例を交えて解説します。

これにより、参加者がクラウドAI技術を活  
用し、業務効率化や新たなサービス開発に  
役立てることを目指します。



ChatGPT

Gemini

## クラウドAI APIの概要と主要サービス比較

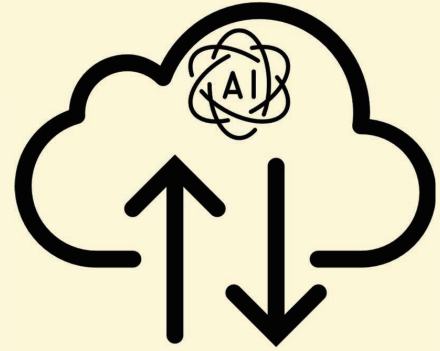
クラウドAI APIとは、クラウド上で提供されるAI機能をAPI経由で利用できるサービスです。

主にチャットボット、画像生成、音声認識などに活用され、開発の効率化と高度なAI機能の実装が可能になります。

主要なクラウドAI APIとして、

- ・ OpenAI API（文章・画像・音声処理）
- ・ Google Gemini API（自然言語・マルチモーダルAI）
- ・ AWS Bedrock API（複数AIモデルの活用）

があり、それぞれ特長に応じた適用が求められます。



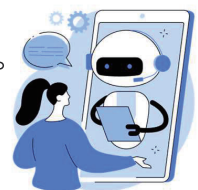
## OpenAI APIの特徴と活用法



OpenAI APIは、高度な自然言語処理を可能にするGPTシリーズを中心に、DALL-E（画像生成）やWhisper（音声認識）などの強力な機能を提供します。

これにより、チャットボットの開発、自動要約・翻訳システムの構築など、幅広い業務やサービスへの応用が可能です。

特に、テキスト生成の精度が高く、ユーザーとの自然な対話や文書作成の自動化に強みを持っています。





## Google Gemini APIの特徴と活用法



Google Gemini APIは、テキスト・画像・動画を統合的に処理できるマルチモーダル対応AIが特長です。

Google検索やGoogle Cloudとの親和性が高く、エコシステム内での活用が容易です。

主な活用例として、検索エンジンの精度向上や画像付きFAQシステムの開発が挙げられます。

例えば、ユーザーの質問に対し、テキストと画像を組み合わせた高度な回答を生成するなど、情報検索の利便性を大幅に向上させます。

## AWS Bedrock APIの特徴と活用法



AWS Bedrock APIは、Anthropic Claude、AI21 Labs、Stability AIなど複数のAIモデルを利用できる柔軟性の高いAIサービスです。

AWS Lambda、S3、DynamoDBとのシームレスな連携が可能で、クラウド環境に最適なAI活用を実現します。

活用例として、AIカスタマーサポートシステムの構築や、大規模データ分析の自動化があり、企業向けの高度なAIソリューション開発に適しています。

AWS環境でのAI導入を容易にし、ビジネスのDXを加速させます。

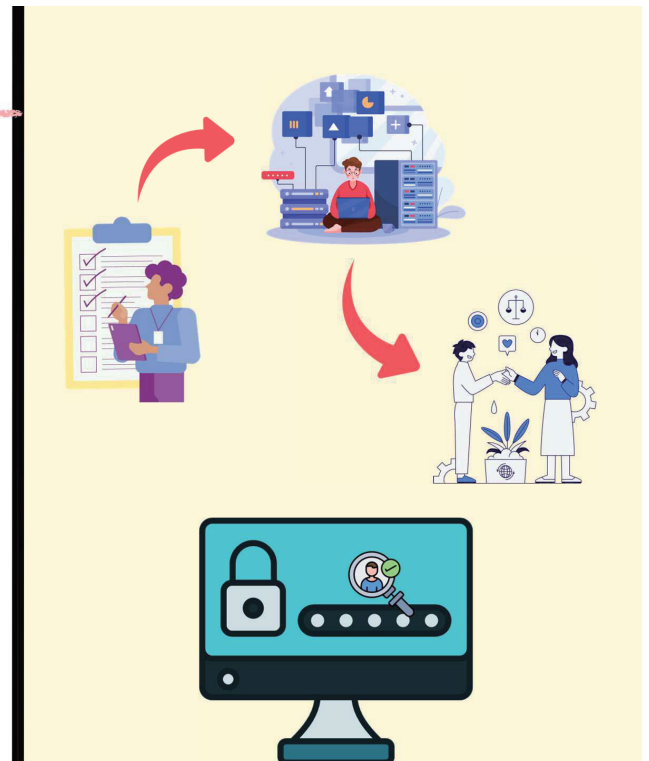
## APIを活用したシステム連携

API（Application Programming Interface）とは、異なるシステム間でデータや機能をやり取りするための仕組みです。

APIを活用することで、クラウドAIの機能を簡単に既存のシステムやアプリに統合できます。

一般的なAPI連携のフローとして、リクエスト送信 → データ処理 → レスポンス取得の手順があります。

また、APIの認証方式には、APIキー認証やOAuth 2.0があり、セキュリティを考慮した適切な実装が求められます。



## 実際のAPI連携コード（Python）

OpenAI APIを活用することで、簡単にチャットボットを実装できます。

右記のPythonコードでは、`openai.ChatCompletion.create`を使い、GPT-4を用いた対話を行います。

このコードを実行すると、ユーザーの質問に対し、GPT-4が回答を生成します。

APIを使えば、カスタマーサポートや自動応答システムの開発が容易になります。

```
import openai

openai.api_key = "YOUR_API_KEY"

response = openai.ChatCompletion.create(
    model="gpt-4",
    messages=[{"role": "user", "content": "クラウドAIとは?"}]
)

print(response["choices"][0]["message"]["content"])
```

## APIを活用したアプリ開発のステップ

クラウドAI APIを活用したアプリ開発は、以下のステップで進めます。

まず、目的に合ったAPIを選定し、適切なAI機能を導入します。

次に、APIキーを取得して認証を設定し、セキュアなアクセスを確保します。

その後、システム構成図を作成し、フロントエンド・バックエンドを開発します。

最後に、アプリをデプロイして運用し、パフォーマンス最適化やAPIの更新対応を行いながら継続的に改善します。



## 具体的なアプリ開発例

クラウドAI APIを活用することで、多様なアプリを効率的に開発できます。

例えば、OpenAI APIとFlaskを組み合わせたチャットボットは、ユーザーの質問に自然な会話形式で応答するシステムを構築できます。

Google Gemini APIとFirebaseを活用した音声入力メモアプリでは、音声を自動テキスト化し、クラウド上で管理できます。

また、AWS Bedrock APIとLambdaを用いた自動レポート生成ツールは、企業のデータを分析し、レポートを自動作成する仕組みを実現できます。



## クラウドAI API導入のメリットと課題

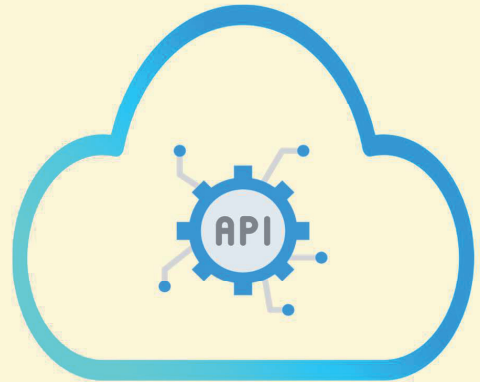
クラウドAI APIを導入することで、開発スピードが向上し、スケーラブルなAI機能を簡単に利用可能になります。

また、常に最新のAI技術を活用できるため、継続的なパフォーマンス向上が期待できます。

一方で、APIの利用料金管理や、データのプライバシー・セキュリティ対策が重要な課題となります。

さらに、AIモデルのアップデートによる仕様変更に対応するため、継続的なメンテナンスが必要です。

導入時にはこれらの要素を考慮し、適切な運用戦略を立てることが重要です。



## まとめと今後の展望

クラウドAI APIを活用するには、各APIの強みを理解し、目的に応じて適切に選択することが重要です。

また、APIを用いたシステム連携やアプリ開発のスキルを高めることで、より高度なAI機能を実装できるようになります。

今後、AI技術はさらに進化し、新たなAPIが登場する可能性があります。

最新技術の動向を常に把握し、柔軟に対応できる開発力を身につけることが、競争力のあるサービス開発に不可欠です。



## 第6章 確認テスト

問1. 「クラウドAI API」とは、どのようなサービスを指すでしょうか。

- 1.クラウド上にあるAIの物理サーバーを直接操作するサービス
- 2.クラウド上で提供されるAI機能をAPI経由で利用できるサービス
- 3.オンプレミス環境のサーバーをクラウドに移行するためのサービス
- 4.クラウド環境でのみ機械学習モデルを学習させるサービス

問2. OpenAI APIの主な特長として 最も正しい 選択肢はどれでしょうか。

- 1.テキスト・画像・音声などを単一のAPIですべて処理するが、自然言語処理は行えない
- 2.自然言語処理が苦手だが、画像生成に特化している
- 3.GPTシリーズやDALL・Eなど多彩なモデルを提供し、高度な自然言語処理や画像生成が可能
- 4.AWS上のリソースとシームレスに連携することで大規模データ分析に強みがある

問3. Google Gemini APIの特長として 最も適切な説明はどれでしょうか。

- 1.テキストのみを専門に扱うAIで、画像や動画は扱えない
- 2.マルチモーダル対応AIを提供し、テキスト・画像・動画を統合的に処理できる
- 3.Amazonのサービスと連携が強く、AWS Lambdaとの統合が容易
- 4.Microsoft製ツールと相性が良く、Azure上でのみ動作する

問4. AWS Bedrock APIに関する説明として 正しいものはどれでしょうか。

- 1.Anthropic Claudeなど複数のAIモデルを活用でき、AWSサービスとも連携しやすい
- 2.テキストと画像のみを処理できるが、音声認識機能は提供していない
- 3.Google Cloud上でのサービス連携を前提としており、AWSでは使えない
- 4.クラウド上のAIモデルの更新が手動でしかできないため、柔軟性に欠ける

問5. 一般的なAPI連携のフローとして、正しい手順の組み合わせはどれでしょうか。

1. 認証 → レスポンス取得 → リクエスト送信
2. リクエスト送信 → データ処理 → レスポンス取得
3. データ処理 → レスポンス取得 → リクエスト送信
4. レスポンス取得 → リクエスト送信 → 認証

問6. スライドに示されている主なAPIの認証方式として 誤っている 選択肢はどれでしょうか。

1. APIキー認証
2. OAuth 2.0
3. Basic認証のみ
4. (選択肢がない場合は認証なし) というケースもあるがセキュリティ上推奨されない

問7. スライドで示された「APIを活用したアプリ開発のステップ」の順番として、最も正しいものはどれでしょうか。

1. APIキー取得 → アプリデプロイ → API選定 → システム構成図作成
2. API選定 → APIキー取得 → システム構成図作成 → アプリ開発 → デプロイ・運用
3. フロントエンド実装 → APIキー取得 → バックエンド実装 → API選定
4. システム構成図作成 → APIキー取得 → API選定 → 運用開始

問8. スライドに挙げられている クラウドAI APIを活用した具体的なアプリの例 として 正しい 選択肢はどれでしょうか。

1. OpenAI APIとFlaskを組み合わせたチャットボット
2. Google Gemini APIとMicrosoft Azureを用いた翻訳アプリ
3. AWS Bedrock APIとGCP Functionsを活用したレポート生成ツール
4. Pythonのローカル環境のみで完結する画像編集アプリ



問9. クラウドAI API導入のメリットとして、スライドで挙げられていないものはどれでしょうか。

- 1.常に最新のAI技術を利用できる
- 2.開発スピードが向上する
- 3.利用料金管理が不要になり、コストが一切かからない
- 4.スケーラブルなAI機能を簡単に利用できる

問10. スライドで示された「今後の展望」について、最も適切な説明はどれでしょうか。

- 1.既存APIはすべて廃止される見込みなので、新規APIが登場するまで待つしかない
- 2.AI技術は停滞傾向にあり、今後は大きな変化がないと予想される
- 3.新たなAPIや技術が登場する可能性があり、常に最新技術の動向を把握し柔軟に対応する必要がある
- 4.現在のクラウドAI APIで完成形であり、これ以上のサービス進化は期待できない



## 第7章 営業・マーケティングでの 生成AI活用

パーソナライズと効率化を実現する最新AI活用法

### なぜ生成AIが重要なのか

近年、生成AIは営業・マーケティング領域で急速に導入が進んでいます。

その理由は、AIが膨大なデータを分析し、パーソナライズされたコンテンツや提案を瞬時に作成できるからです。

営業では、顧客ニーズに応じた最適な資料やトークを自動生成し、成約率向上に貢献。

マーケティングでは、広告やメールを個別最適化し、エンゲージメントを高めます。



## パーソナライズドマーケティングの重要性

現代のマーケティングでは、  
画一的な広告やコンテンツではなく、  
顧客ごとに最適な情報を提供することが求められています。

生成AIを活用することで、ユーザーの行動データを分析し、一人ひとりに合わせたコンテンツを自動生成できます。

例えば、Netflixは視聴履歴から最適な作品を推薦し、Amazonは購入履歴をもとに個別の商品提案を行っています。

こうしたAIの活用により、  
顧客満足度の向上と企業の売上増加が期待できます。



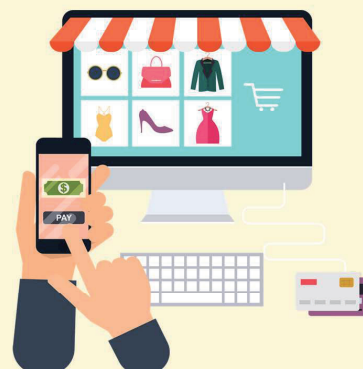
## 生成AIによるパーソナライズドマーケティングの実現

生成AIは、顧客の興味・関心や購買履歴を分析し、  
個別最適化された  
マーケティング施策を自動で実行できます。

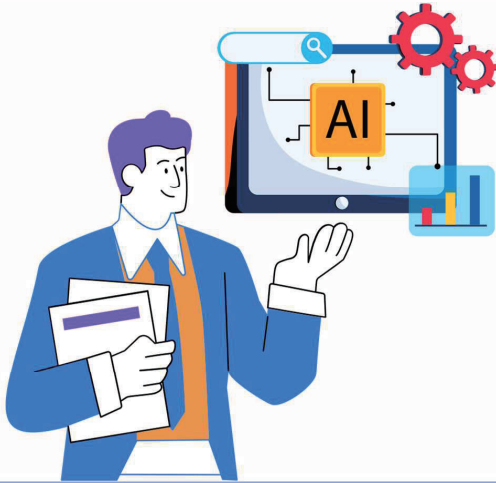
顧客データを活用することで、  
開封率の高いメールや効果的な広告コピーを生成し、  
ターゲットに合わせたコンテンツを配信可能です。

例えば、ECサイトではユーザーごとに  
異なる商品レコメンドを行い、  
SNSでは個別の興味に応じた広告を表示。

これにより、顧客満足度を向上させ、  
コンバージョン率の最大化が期待できます。



## 生成AIを活用した営業の変革



生成AIは営業活動の効率化と成果向上に大きく貢献します。

AI搭載の営業支援ツール（HubSpot AIやSalesforce Einsteinなど）を活用することで、顧客データをリアルタイムで分析し、最適なアプローチを提案できます。

また、過去の商談データをもとに、顧客ニーズに沿った営業トークスクリプトを自動生成し、営業担当者のパフォーマンス向上を支援。

これにより、商談成功率を高め、営業プロセスの最適化を実現します。

## AIを活用した営業資料作成

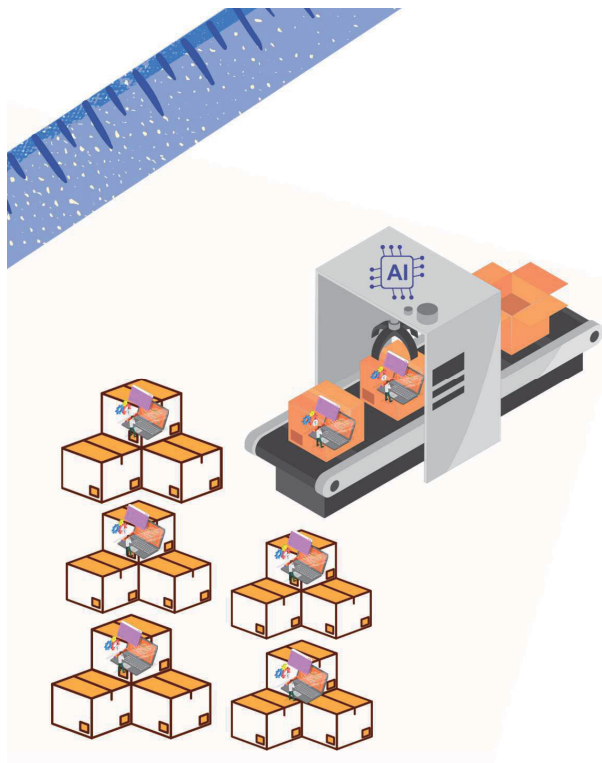
生成AIは営業資料の作成を効率化し、短時間で高品質なプレゼン資料や提案書の作成を可能にします。

例えば、Canva AIやTome AIなどのツールを活用することで、企業ロゴやブランドガイドラインに沿ったスライドを自動生成し、視覚的に魅力的な資料を瞬時に作成できます。

また、顧客データをもとに、提案内容を最適化し、パーソナライズされた資料を作成することも可能。

これにより、営業担当者は資料作成の負担を減らし、商談に集中できるようになります。



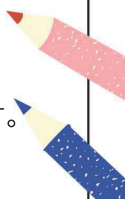


## AIによる マーケティングコンテンツ生成

生成AIを活用することで、  
ブログ記事、SNS投稿、広告コピーなどのマーケ  
ティングコンテンツを自動生成でき、  
短時間で高品質なコンテンツを大量に作成可能になり  
ます。

例えば、  
ChatGPTを活用すればSEO対策を考慮した記事を  
素早く作成でき、Copy.aiを使えばターゲットに最  
適化された広告コピーを自動生成できます。

これにより、企業は一貫性のある  
ブランドメッセージを維持しつつ、  
コンテンツ制作の負担を軽減し、  
効率的なマーケティング展開が可能になります。



## 企業別 生成AIの活用事例

生成AIは多くの企業で活用され、  
営業・マーケティングの革新を支えています。

Netflixは視聴データを解析し、  
個別に最適化されたコンテンツを推薦。



Coca-ColaはAIを活用して、  
独自性のあるマーケティングキャンペーンを自動  
生成。

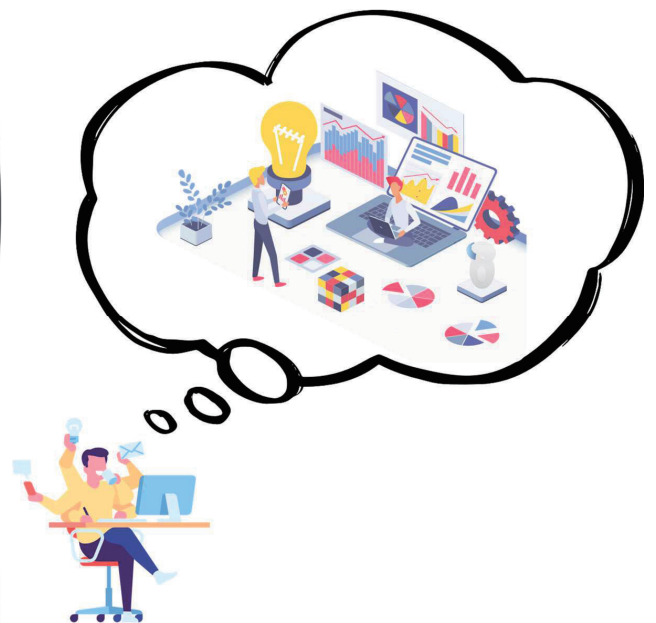


NikeはAIによるカスタマイズ広告で、  
ターゲットごとに最適なメッセージを配信。

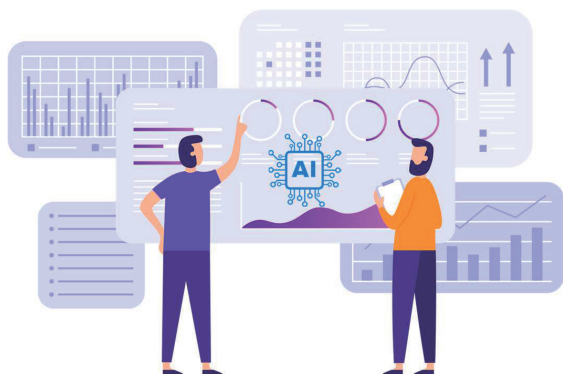


HubSpotは営業活動を自動化し、  
顧客ごとにパーソナライズされたメールを送信。

これらの事例から、  
AIが業務効率化と顧客エンゲージメント向上に  
貢献していることがわかります。



## 生成AIを使った市場分析とトレンド予測



生成AIを活用することで、  
市場分析やトレンド予測の精度が飛躍的に向上します。

Google TrendsやTableau AIなどのツールを使えば、  
膨大なデータをリアルタイムで解析し、  
顧客の関心や市場動向を的確に把握可能。

さらに、AIは購買行動や検索データをもとに  
顧客インサイトを抽出し、ターゲティングの精度を高めるこ  
とで、より効果的なマーケティング施策を実現します。

これにより、企業は競争優位性を確保し、的確な意思決定が  
可能になります。

## 実践！生成AIを活用したマーケティング施策

生成AIを効果的に活用するには、  
業務フローに適したAIツールを選定し、  
段階的に導入することが重要です。

まず、自社の課題を明確化し、AIの活用領域  
(コンテンツ生成、ターゲティング、データ分析な  
ど)を特定。

その後、ChatGPT、Copy.ai、HubSpot AIなどの  
ツールを検討し、試験運用を行いながら最適なワー  
クフローを構築します。

適切な運用ルールを設けることで、業務の効率化と  
マーケティング成果の最大化が期待できます。





## 生成AI活用の課題と注意点

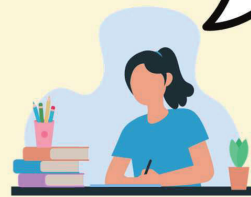
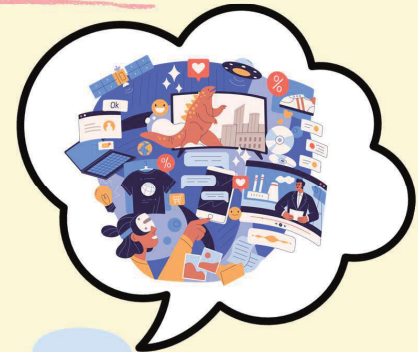
生成AIの活用には多くのメリットがある一方で、倫理的課題やプライバシーの問題にも注意が必要です。

AIが学習データに依存するため、意図しないバイアスが含まれる可能性があり、公平性の確保が課題となります。

また、個人情報を扱う際は適切なデータ管理が求められます。

さらに、AIはあくまで補助ツールであり、最終的な判断は人間が行うべきです。

これにより、信頼性の高いマーケティング施策や営業活動を実現できます。



## まとめ & 今後の展望

生成AIは営業・マーケティングの在り方を大きく変革し、パーソナライズの強化、業務の効率化、データ活用の高度化を実現します。

今後は、AIと人間が協力しながら最適な施策を展開することが重要です。

AIを活用することで、反復的な作業を自動化し、戦略的な判断や創造的な業務に集中できる環境が整います。

企業は、AIを適切に取り入れながら人間の判断力を活かす運用体制を構築することで、競争力を高めることができます。



## 第7章 確認テスト

問1 生成AIが営業・マーケティングで重要視される主な理由は何でしょうか。

1. 担当者の数を増やさなくても売上を自動的に伸ばすため
2. 大量のデータを分析し、短時間でパーソナライズされた提案を作成できるため
3. 顧客データを不要にし、直感的な営業活動を促進するため
4. 商品開発の工程をすべて自動化するため

問2 パーソナライズドマーケティングが現代で特に重視される理由として最も適切なものはどれでしょうか。

1. すべての顧客に同じコンテンツを提供したほうがコストがかからないから
2. 画一的なメッセージほど顧客に響きやすいから
3. 顧客ごとに最適化された情報を提供することで、満足度や売上を高められるから
4. 広告を一括配信することが企業イメージ向上につながるから

問3 スライドで紹介されたパーソナライズドマーケティングの具体例として正しいものはどれでしょうか。

1. Netflixがユーザーごとの視聴履歴に基づき、最適な作品を推薦する
2. コンビニエンスストアが24時間営業を実施する
3. スーパーマーケットが会員制度を導入してポイントを配布する
4. 銀行がネットバンキングサービスを展開する

問4 生成AIを活用したマーケティング施策の特徴として最も適切なものはどれでしょうか。

1. AIが自動生成したコンテンツはすべてマニュアルで修正する必要がある
2. 配信する広告やメールの内容をユーザーの興味・関心に合わせて自動生成できる
3. データを収集せずにコンテンツを作成できるためプライバシー問題が起こりにくい
4. 他社製品の情報を自動的にブロックし、独自広告のみ表示できる



**問5 生成AIを活用した営業支援ツールの例として、スライドで言及されているものはどれでしょうか。**

1. ExcelとWord
2. SlackとTeams
3. HubSpot AIやSalesforce Einstein
4. ZoomとSkype

**問6 営業資料作成における生成AIのメリットとして最も適切なのはどれでしょうか。**

1. 人手でしか作れないクリエイティブなデザインが不要になる
2. プレゼン資料の作成を完全自動化し、営業担当者が介入できなくなる
3. ブランドガイドラインに沿ったデザインや顧客ニーズに合わせた内容を短時間で作成できる
4. トークスクリプトを一定のテンプレートに固定し、自由度を制限する

**問7 生成AIによるマーケティングコンテンツ生成の利点として適切なのはどれでしょうか。**

1. 一度にすべてのSNSプラットフォームを停止できる
2. 大量のコンテンツを短時間で作成し、一貫性のあるブランドメッセージを保てる
3. 全広告コピーを固定化し、新規性を排除する
4. 競合他社の広告運用を自動で妨害する

**問8 スライドで紹介されている生成AI活用企業の例として誤っているものはどれでしょうか。**

1. Netflix：視聴データを解析して個別最適化されたコンテンツを推薦
2. Coca-Cola：AIを活用して独自性のあるマーケティングキャンペーンを生成
3. Nike：AIによるカスタマイズ広告でターゲットごとに最適なメッセージを配信
4. Amazon：個々のユーザーに関係なく常に同じ商品を提案

**問9 市場分析やトレンド予測における生成AI活用のメリットとして最も適切なのはどれでしょうか。**

1. 経験のない担当者でも、自動的にすべての戦略決定が可能になる
2. リアルタイムで大量のデータを解析し、精度の高い顧客インサイトを得られる
3. 競合他社のデータを完全にロックし、市場参入をブロックできる
4. 人間の判断を一切排除し、AIのみですべて運用できる

**問10 生成AIを営業・マーケティングに導入する際の注意点として最も適切なのはどれでしょうか。**

1. AIにすべてを任せ、人間のチェックは不要とする
2. 個人情報を含むデータは積極的に外部に公開して学習データを増やす
3. AIが意図しないバイアスを含む可能性があるため、最終判断は人間が行う
4. AIによるコンテンツ生成は常に正確なので、倫理的課題は発生しない



## 第8章 業務効率化とBPRにおける 生成AI活用

AIで加速する業務改革と生産性向上

### アジェンダ



業務課題の特定と優先順位付けを行い、生成AIを活用した業務プロセスの改善方法を解説します。

BPR（業務改革）の視点から、AI導入による業務の最適化や自動化の効果を提案し、実際の導入事例を紹介します。



最後に、企業がAIを活用する際のポイントを整理し、実践的な活用方法をまとめます。

これにより、業務効率化とBPRの推進における生成AIの役割を明確に理解できます。



## 業務効率化とBPRの基本概念

業務効率化とは、コスト削減・時間短縮・品質向上を目的に、業務の最適化を図ることです。

一方、BPR（業務改革）は、業務プロセス全体を根本から見直し、抜本的な変革を行う手法です。

生成AIは、文書作成やデータ分析の自動化、ナレッジ共有の最適化などを通じて、これらの取り組みを加速します。

AIの活用により、業務の効率性を向上させるだけでなく、革新的な業務プロセスの設計が可能になります。



## 業務課題の洗い出しと優先順位付け

業務効率化の第一歩は、課題の洗い出しと優先順位付けです。

課題は、繰り返し業務（データ入力・レポート作成）、属人化している業務（専門知識が必要な作業）、コミュニケーションコストが高い業務（顧客対応）などに分類されます。

優先順位を決める際は、業務の頻度や負荷、自動化・改善による影響度、生成AIの適用可否を考慮します。

適切なAI活用により、業務効率を大幅に向上させ、BPRの成功につなげることが可能です。



## 生成AIの活用領域（一般例）

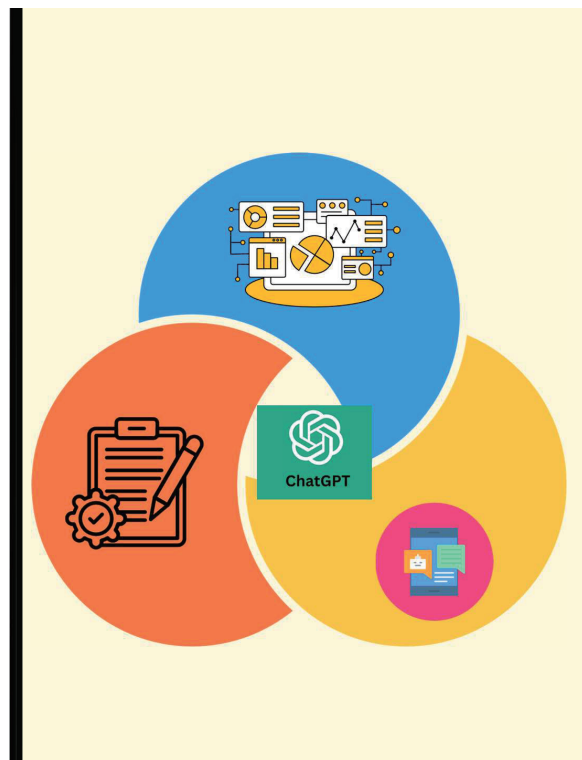
生成AIは、業務効率化やBPRにおいて幅広く活用できます。

文書作成・要約では、報告書や議事録を自動生成し、作業時間を削減します。

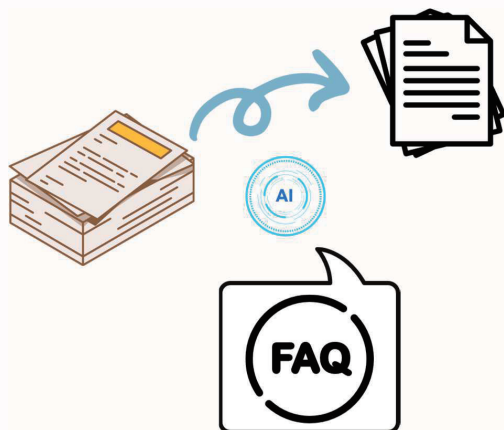
データ処理・分析では、市場分析や顧客データの解析を高速化し、意思決定を支援します。

画像・動画生成では、広告やプロモーション素材の作成を自動化し、クリエイティブ業務を効率化します。

さらに、チャットボットや自動応答機能により、社内外の問い合わせ対応を最適化し、業務負荷を軽減します。



## 生成AIを活用した 業務プロセス改善



生成AIは業務プロセスの改善に大きく貢献します。

まず、業務のデジタル化支援では、紙ベースの業務を電子化し、情報共有や検索性を向上させます。

次に、ナレッジ管理の効率化では、FAQの自動生成により、社内外の問い合わせ対応を迅速化します。

さらに、データに基づくレコメンド機能を活用することで、意思決定の迅速化が可能になります。

これにより、企業全体の生産性向上とBPRの成功を支援します。



## BPRにおける生成AI活用のポイント



- BPRにおける生成AI活用のポイントは、まず現状の業務プロセスを可視化し、改善すべき課題を特定することです。

その上で、AIを導入して業務フローを再設計し、作業の効率化と自動化を推進します。

また、従業員の役割変化を考慮し、AIを活用するための教育計画を整備することも重要です。

導入後は、効果測定を行い、プロセスを最適化し続けることで、業務効率化とBPRの成功を実現します。

## 事例紹介（1）業務効率化

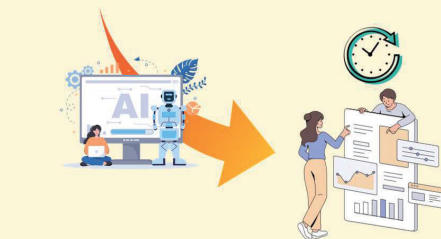
製造業A社では、データ分析に膨大な手作業が必要という課題を抱えていました。

そこで、データ解析AIを導入し、作業時間を70%削減。

従業員は単純作業から解放され、より高度な業務に集中できるようになりました。

これにより、意思決定のスピードが向上し、分析の正確性も増しました。

さらに、人的ミスの削減と業務プロセスの最適化が進み、生産性の向上に大きく貢献しました。



## 事例紹介（2）BPRへの応用

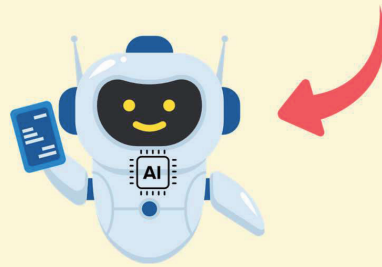
サービス業B社では、顧客問い合わせ対応の負荷が高く、業務の効率化が課題となっていました。

そこで、生成AIを活用したチャットボットを導入し、問い合わせ対応を自動化。

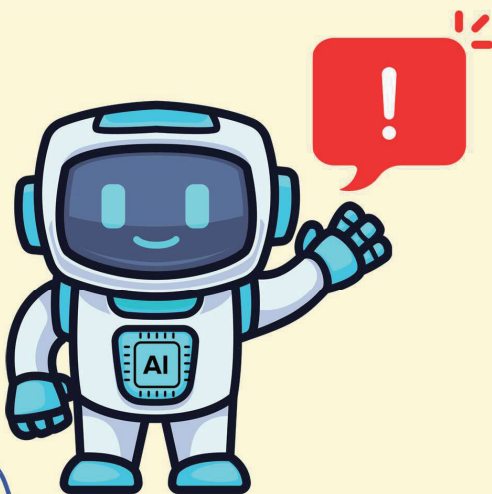
その結果、対応時間を50%削減し、迅速な回答が可能となりました。

従業員はより複雑な対応に集中できるようになり、業務の質も向上。

加えて、24時間対応が可能となり、顧客の利便性が向上しました。



## 生成AI導入時の注意点



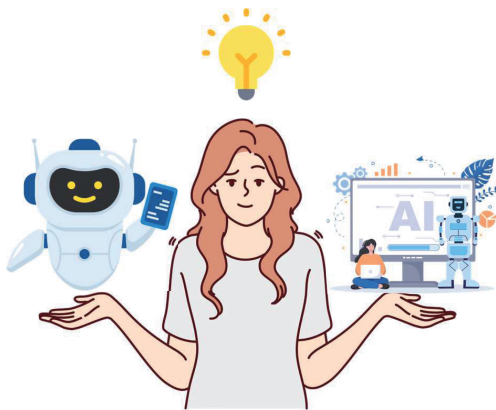
生成AIの導入に際しては、いくつかの重要なポイントに注意が必要です。

まず、データの正確性とプライバシー保護を徹底し、誤った情報の流通や機密情報の漏洩を防ぐことが求められます。

また、従業員がAIを効果的に活用できるよう、適切なトレーニングを実施し、スキル向上を支援することも不可欠です。

さらに、AIの判断がブラックボックス化しないよう、透明性を確保し、説明責任を果たすことが信頼性の向上につながります。





## まとめ

業務効率化を実現するためには、  
生成AIの活用が効果的です。

データ処理の自動化やチャットボット導入などにより、  
業務負担を軽減し、生産性を向上させることができます。

しかし、単なる効率化だけでなく、  
BPR（業務改革）の視点から業務プロセス全体を見直すこと  
が重要です。

適切なAI導入戦略を策定し、  
導入後の効果を継続的に評価・最適化することで、  
より高い成果を生み出すことができます。

## 第8章 確認テスト

問1. 業務効率化とBPRにおける生成AIの主な役割は何でしょうか？

- 1 業務プロセスを守秘化し、外部に一切情報を提供しない
- 2 文書作成や分析などの自動化を通じて、業務効率化と抜本的な業務改革を促進する
- 3 AIを導入せず、人間の手作業で品質を保つプロセスを重視する
- 4 社内コミュニケーションを減らすことで、業務の透明性を下げる

問2. 業務効率化とは何を目的とした取り組みでしょうか？

- 1 企業の規模拡大のみを目的とする
- 2 コスト削減・時間短縮・品質向上を目的とした業務の最適化
- 3 社員のモチベーション向上を唯一の目的とする
- 4 新規事業への参入のみをゴールとする

**問3 BPR（業務改革）の特徴として、最も適切な説明はどれでしょうか？**

- 1 部門間の調整をせずに、現行プロセスを部分的に修正する手法
- 2 業務プロセス全体を見直し、根本的に再設計する手法
- 3 社員の増員によって作業量をカバーする手法
- 4 顧客に対してのみ業務を外注する手法

**問4 課題を洗い出し、優先順位を決める際に考慮すべき点として不適切なものはどれでしょうか？**

- 1 業務の頻度や負荷
- 2 自動化・改善による影響度
- 3 生成AIの適用可否
- 4 社内の上下関係や年功序列を最優先すること

**問5 生成AIを活用した文書作成・要約の主なメリットは何でしょうか？**

- 1 作業時間を大幅に削減できる
- 2 人間が書くよりも必ず内容が正確になる
- 3 社内のデジタル化を阻害する
- 4 課題抽出の際に優先度を下げざるを得なくなる

**問6 製造業A社の事例で、データ解析AI導入によって得られた主な効果は何でしょうか？**

- 1 作業時間が約70%削減され、従業員が高度な業務に集中できるようになった
- 2 問い合わせ対応の時間を50%短縮し、顧客満足度を向上させた
- 3 全社的に紙ベースの業務が増えた
- 4 分析の正確性が下がり、意思決定に時間がかかった

**問7 サービス業B社で、生成AIを活用したチャットボット導入による主な成果は何でしょうか？**

- 1 24時間対応が不可能になり、顧客満足度が低下した
- 2 問い合わせ対応時間を50%削減し、従業員は複雑な対応に集中できるようになった
- 3 コミュニケーションコストが増加し、コールセンターの負担が増えた
- 4 人的ミスは減らせたが、回答速度は大幅に遅くなった

**問8 生成AI導入に際して、特に注意すべきポイントとして適切なものはどれでしょうか？**

- 1 データの正確性やプライバシー保護、AI活用のための人材教育、AI判断の透明性確保
- 2 AIの判断をすべてブラックボックス化し、説明責任を放棄する
- 3 社員のトレーニングを省略し、自動化に完全依存する
- 4 情報漏洩の防止よりも導入スピードを最優先する

**問9 BPRの視点から生成AIを導入する際に、まず行うべきことは何でしょうか？**

- 1 新規システムを先に購入し、あらゆる業務に適用する
- 2 業務プロセスを可視化し、改善すべき課題を特定する
- 3 AIによる自動化を前提に、人間の業務をすべて撤廃する
- 4 従業員を大幅に削減し、人件費のコストカットを図る

**問10 生成AIによる業務効率化を、より高い成果につなげるために重要なことは何でしょうか？**

- 1 AI導入後は放置し、システムが自動的に最適化するのを待つ
- 2 単なる効率化だけでなく、BPRの視点で業務プロセス全体を継続的に見直す
- 3 AIの導入を一度に全社で実行し、部分的な検証を行わない
- 4 新しい業務プロセスよりも、従来の方法を優先して維持する

## 第9章 生成AIの倫理・コンプライアンス セキュリティ対策

安全かつ透明性のあるAI活用のために

### イントロダクション

生成AIは急速に発展し、ビジネスやクリエイティブ分野での活用が進んでいます。しかし、その普及に伴い、倫理・コンプライアンス・セキュリティの課題が浮上しています。

AIのバイアスは公平性を損ない、企業データの不適切な使用は情報漏洩リスクを高めます。

また、著作権や法規制への対応も不可欠です。これらの問題に適切に対処することで、安全で信頼性のあるAI活用が可能になり、社会的責任を果たすことが求められます。



# AIのバイアス問題と透明性の確保 1

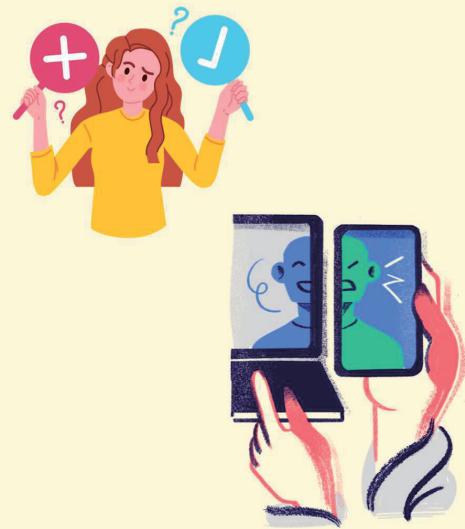
## AIのバイアスとは？

AIが特定の集団に偏った判断を下す現象です。

これは、学習データの偏りや設計時の無意識な先入観により生じます。

例えば、顔認識AIが特定の人種の識別精度に差を生じさせたり、AIを活用した採用判断で特定の属性を不利に扱うケースが報告されています。

バイアスが放置されると、不公平な社会制度の助長や信頼性の低下につながるため、多様なデータの活用や透明性の確保が重要となります。



# AIのバイアス問題と透明性の確保 2

## バイアス軽減のための対策

生成AIのバイアスを軽減するためには、まずデータセットの多様性を確保することが重要です。

特定の属性に偏らないデータを用いることで、公平な学習が可能になります。

また、フェアネス（公平性）を評価する手法を導入し、AIの判断が特定のグループに不利益をもたらしていないかを検証することも不可欠です。

さらに、継続的なモニタリングと修正を行い、運用後もAIの判断を改善し続けることで、公正かつ透明性の高いAI活用が実現できます。



## AIのバイアス問題と透明性の確保 3

### 透明性の確保

生成AIの透明性を確保するためには、説明可能なAI（XAI）の導入が重要です。

XAIは、AIの意思決定プロセスを明確にし、なぜ特定の判断が下されたのかを理解しやすくします。

さらに、AIのアルゴリズムや学習データの開示を行うことで、公平性や信頼性を高められます。

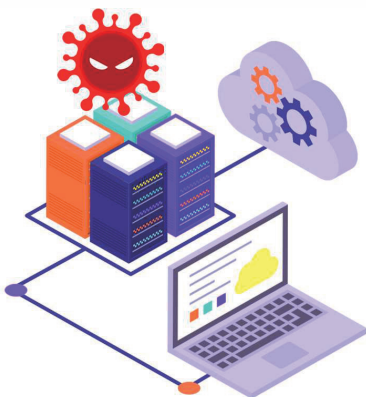
また、ユーザーへの説明責任を果たすために、AIの判断結果やリスクについて適切に伝え、誤用や誤解を防ぐ取り組みが求められます。

透明性を確保することで、安全で倫理的なAI活用が可能になります。



## AIのバイアス問題と透明性の確保 4

### 企業データのAI利用におけるリスク



企業が生成AIを活用する際、データの管理には慎重な対応が求められます。

機密情報がAIの学習データとして誤って利用されると、外部流出のリスクが高まります。

また、データガバナンスが欠如すると、AIが不適切な情報を学習し、誤った判断を下す可能性があります。

さらに、AIシステムはサイバー攻撃の標的になりやすく、不正アクセスや情報改ざんのリスクも存在します。

適切なセキュリティ対策とガバナンスの確立が、企業の信頼性を維持する鍵となります。



## AIのバイアス問題と透明性の確保 5

### データ管理とリスク軽減のための対策



生成AIの安全な運用には、適切なデータ管理とリスク軽減策が不可欠です。

まず、企業はAI利用ポリシーを策定し、データの取り扱い基準を明確にする必要があります。

次に、機密情報の流出を防ぐため、データの匿名化や暗号化技術を活用し、安全性を高めます。

また、アクセス制御を強化し、権限のあるユーザーのみがデータにアクセスできるようにすることで、不正利用を防ぎます。

さらに、監査ログを管理し、不審な動きを追跡できる体制を整えることが重要です。

## AIのバイアス問題と透明性の確保 6

### 事例紹介：企業のデータ管理対策



生成AIの適切な活用には、企業のデータ管理戦略が重要です。

大手企業では、厳格なデータガバナンスを確立し、アクセス管理や暗号化技術を導入することで機密情報の保護を強化しています。

例えば、ある企業では、AIが機密データを誤って学習しないよう匿名化技術を活用し、リスクを最小限に抑えています。

また、過去のインシデントでは、不適切なデータ管理が情報漏洩を引き起こし、企業が迅速にセキュリティ対策を強化することで被害を食い止めた事例もあります。



## AI生成コンテンツの著作権・法規制対応 1

### AI生成コンテンツ著作権の課題

AI生成コンテンツの著作権は、現在の法律では明確に定義されていない部分が多く、法的グレーゾーンが存在します。

AIが作成した画像や文章の著作権は、開発者、ユーザー、もしくはAI自体にあるのかという議論が続いています。

著作権侵害のリスクも高く、学習データに既存の著作物が含まれる場合、無断使用と見なされる可能性があります。

企業や個人は、適切なライセンス管理やガイドラインの遵守を徹底し、リスクを回避する必要があります。



## AI生成コンテンツの著作権・法規制対応 2

### 最新の法規制とガイドライン

生成AIの普及に伴い、各国で法規制やガイドラインが整備されています。

EUのAI規制法案（AI Act）では、高リスクAIの厳格な管理を求め、米国ではAIの透明性と倫理基準を強調する政策が進められています。

日本も「AIガイドライン」を策定し、適正な運用を推奨しています。企業はこれらの規制を遵守し、データの適正利用や著作権管理を徹底する必要があります。

生成コンテンツの適正利用基準を確立し、倫理的かつ法的に適切なAI運用を行うことが求められます。



## AI生成コンテンツの著作権・法規制対応3

### AIコンテンツの適切な活用法

生成AIの適切な活用には、企業がコンプライアンス対応を徹底することが不可欠です。

AIが生成したコンテンツの著作権問題を回避するため、クレジット表記やライセンス管理を適切に行い、権利者とのトラブルを防ぐ必要があります。

また、クリエイターや企業との共存戦略を築くことで、AIと人間の創造性を活かした新たな価値創出が可能になります。

企業は透明性のあるルールを策定し、公正な活用を推進することで、信頼性の高いAI運用を実現できます。



### まとめと今後の展望

生成AIの活用が拡大する中、倫理・コンプライアンス・セキュリティの確保が不可欠です。

企業や個人は、AIのバイアス防止、適切なデータ管理、著作権遵守を徹底する必要があります。

また、透明性を確保し、AIの意思決定プロセスを説明可能にすることが信頼性向上につながります。

今後、各国で法規制が強化され、AI技術も進化するため、最新の動向を常に把握し、適切な対応を続けることが、安全で持続可能なAI活用の鍵となります。

## 第9章確認テスト

問1 生成AIの普及に伴う代表的な課題として誤っているものはどれか？

- 1.AIのバイアス
- 2.情報漏洩リスク
- 3.著作権問題
- 4.太陽光発電システムの故障率上昇

問2 「AIのバイアス」に関して、最も正しい説明はどれか？

- 1.AIが判断において特定の集団を優遇または不利に扱うこと
- 2.AIが常に公平な結果を出すようにプログラムされていること
- 3.AIのバイアスは学習データとは無関係に発生する現象であること
- 4.バイアスがあっても社会的影響は少ないため放置してよいこと

問3 バイアス軽減のための対策として、適切でないものはどれか？

- 1.学習データの多様性を確保する
- 2.フェアネス（公平性）を評価する手法を導入する
- 3.運用後もモニタリングや修正を継続して行う
- 4.偏ったデータセットを積極的に使用し、AIの個性を強める

問4 生成AIの透明性を高めるために最も重視される取り組みはどれか？

- 1.AIシステムの意思決定プロセスを説明可能にする（XAIの導入）
- 2.AIの判断結果をユーザーに隠蔽する
- 3.AIのアルゴリズムをブラックボックス化し、企業秘密とする
- 4.ユーザーがAIの利用を意識できないようにする

**問5 企業が生成AIを活用する際のデータ管理上のリスクとして、誤っているものはどれか？**

- 1.機密情報が学習データとして誤って利用される危険性
- 2.AIが不正アクセスの標的になるリスク
- 3.適切なデータガバナンスがAIの学習を促進しすぎるリスク
- 4.AIが不適切な情報を学習し、誤った判断を下す可能性

**問6 生成AIを安全に運用するためのデータ管理とリスク軽減策として、最も重要でないものはどれか？**

- 1.AI利用ポリシーを策定し、取り扱い基準を明確にする
- 2.データの匿名化や暗号化技術を導入する
- 3.アクセス制御を強化し、監査ログを適切に管理する
- 4.すべてのデータを公開し、透明性を最優先にする

**問7 バイアスや情報漏洩リスクを低減するために企業が行うべき施策として、もっとも的確なものはどれか？**

- 1.AIによる判断を人間のチェックなしで即時実施する
- 2.データガバナンスを強化し、アクセス管理や暗号化を徹底する
- 3.学習データの偏りを意図的に大きくし、特徴を際立たせる
- 4.AIシステムの運用状況を監査する仕組みは不要である

**問8 AI生成コンテンツにおける著作権問題に関する説明で、最も正しいものはどれか？**

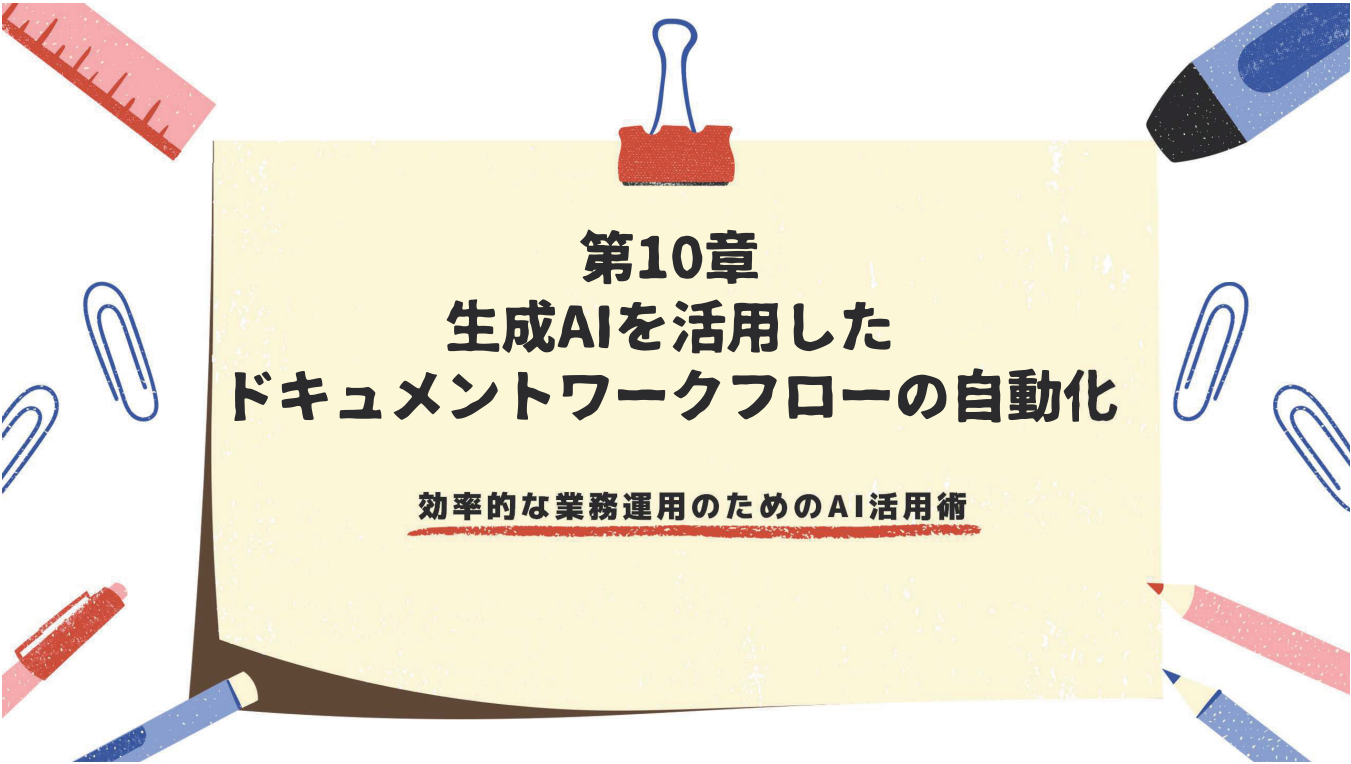
- 1.AIが生成したコンテンツは、法律上、すべてAIが著作権を保有する
- 2.既存の著作物を学習データに含める場合、ライセンスや権利関係に注意が必要である
- 3.AI生成物は常に公有物扱いとなり、誰でも自由に利用できる
- 4.AIの出力結果には著作権が発生しないため、企業としては対策不要である

**問9 EUのAI規制法案（AI Act）や日本の「AIガイドライン」などが求める主なポイントはどれか？**

- 1.AI技術の無制限の活用を奨励すること
- 2.高リスクAIに対する厳格な管理や適正運用の推奨
- 3.AIの国際取引を完全に禁止すること
- 4.AI運用における透明性を排除し、企業の利益を優先すること

**問10 生成AIを適切に活用するために企業が重点的に行うべきこととして、最も的確な選択肢はどれか？**

- 1.AI生成コンテンツの著作権表示やライセンス管理を徹底する
- 2.AIの判断結果をすべて人間に委ねる
- 3.社内規定よりも優先してAIの出力を信頼する
- 4.他社のデータを無断で収集し、学習データを拡大する



## 第10章 生成AIを活用した ドキュメントワークフローの自動化

効率的な業務運用のためのAI活用術

### イントロダクション



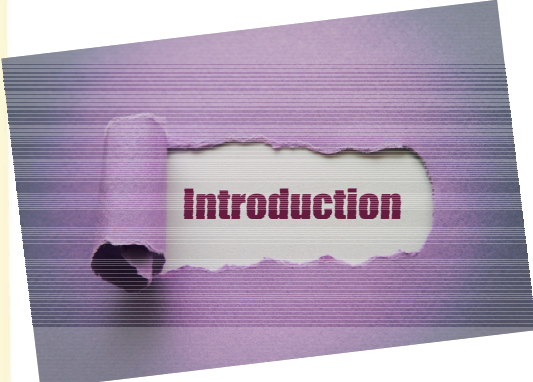
ドキュメント業務には、非効率性やフォーマットの不統一、手作業によるミスがつきものです。

これらの課題は、業務の遅延や品質低下を引き起こします。



生成AIを活用することで、文書作成の自動化やフォーマット統一が可能になり、作業時間の短縮とミスの削減を実現します。

また、情報の迅速な共有や更新が行え、業務効率が飛躍的に向上します。



**Introduction**





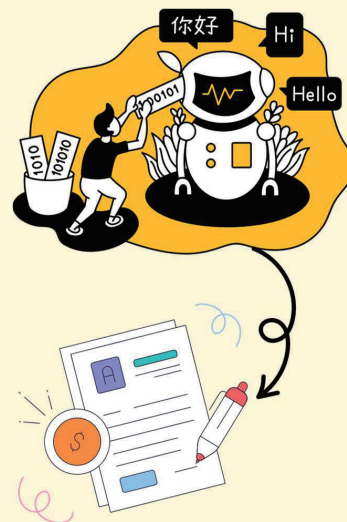
## 生成AIの概要とドキュメントワークフローへの応用

生成AIは、自然言語処理（NLP）を活用して、人間の言葉を理解し、文書を自動生成する技術です。

これにより、契約書、議事録、報告書などの作成が効率化され、フォーマット統一や修正作業の手間が軽減されます。

企業では、提案書の作成、カスタマーサポートの自動応答、社内報の自動作成などに活用されています。

生成AIを導入することで、業務のスピードと正確性が飛躍的に向上し、競争力を強化することが可能です。



## GoogleDocsとの連携



GoogleDocsは、生成AIと連携することで、ドキュメント作成の効率化が可能です。

Google Apps Scriptを活用することで、文章の自動生成やフォーマット統一、リアルタイム編集が実現します。

例えば、社内報や報告書を自動作成することで、作業時間を大幅に短縮し、品質を一定に保てます。

また、リアルタイム編集により、複数人での共同作業が円滑に進行。

## Microsoft Wordとの連携



Microsoft



Microsoft Wordは、生成AIと連携することで、ドキュメント作成が効率化されます。

Microsoft Copilotを活用することで、AIがテンプレートに基づいて文章を自動生成し、フォーマットの統一が容易に行えます。

例えば、提案書やレポートを自動作成することで、内容の一貫性を保ちながら迅速に仕上げる事が可能です。

修正や更新もAIがサポートするため、作業効率が向上し、手作業によるミスを削減できます。

## Microsoft Excelとの連携



Microsoft



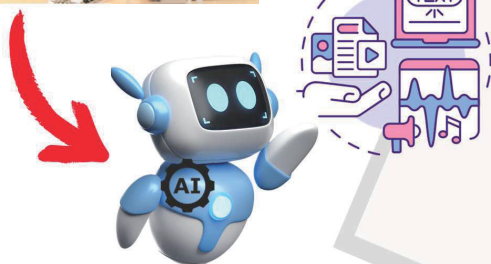
Excelは、生成AIと連携することで、データ分析とレポート作成が飛躍的に効率化されます。

AIは大量のデータを迅速に分析し、洞察を含むレポートを自動生成します。

また、Power Automateを活用することで、データの取得からレポートの作成、配信までの一連のワークフローを自動化可能です。

例えば、財務分析レポートを自動生成することで、正確かつ一貫性のある報告が迅速に行えます。

## AIによる文書作成・フォーマット統一



生成AIを活用することで、文書作成の効率化とフォーマット統一が実現できます。

AIは文章のリライトを行い、表現の質を向上させると同時に、誤字脱字の修正や文体の統一をサポートします。

また、フォーマットを統一することで、プレゼン資料や報告書の見栄えが整い、情報の伝達力が高まります。

例えば、テンプレートを活用したプレゼン資料の自動生成により、ブランドイメージを保ちながら、迅速に資料を作成できます。

### 活用事例①：契約書の自動生成

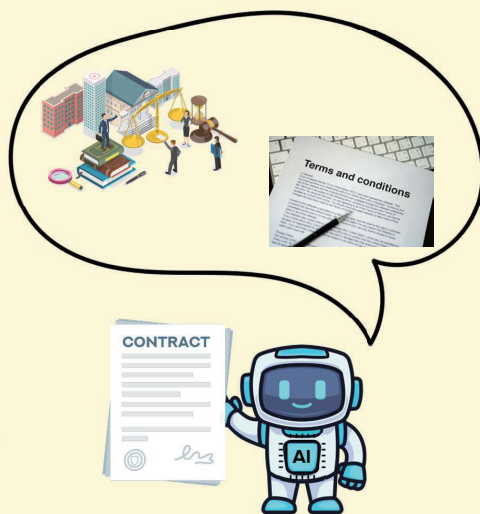
生成AIを活用することで、契約書の作成が迅速かつ正確に行えます。

契約書作成プロセスでは、必要な条件を入力することで、AIが自動的に内容を生成し、フォーマットを統一します。

これにより、法的要件を満たしながら、誤りのない契約書を作成可能です。

また、条件入力によるカスタマイズが可能なため、案件ごとに異なる内容にも柔軟に対応できます。

出力例として、雛形を基にした個別契約書の生成が挙げられ、業務効率の向上と品質の標準化が実現します。



## 活用演習②：議事録の自動生成

生成AIと音声認識技術を組み合わせることで、議事録の自動生成が可能になります。

会議の音声データをAIがテキストに変換し、要点を自動抽出してフォーマット化するため、正確かつ効率的に議事録を作成できます。

また、重要な発言や決定事項を強調することで、情報の整理が容易になります。

出力例として、要約付きの議事録やアクションアイテムがリスト化されたフォーマットが挙げられます。

これにより、記録作業の負担が軽減され、会議後の共有が迅速に行えます。



## 生成AI活用のベストプラクティス

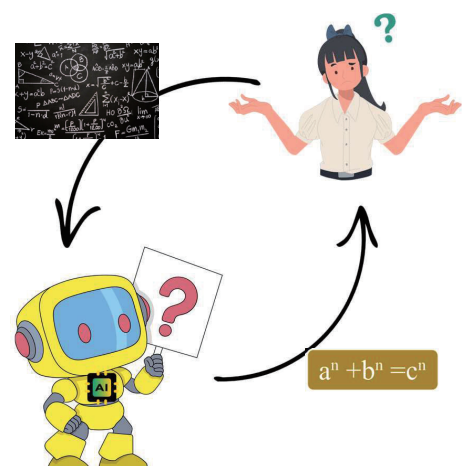
生成AIを効果的に活用するためには、ベストプラクティスを理解することが重要です。

まず、精度を向上させるためには、適切なプロンプト設計が不可欠です。

具体的かつ明確な指示を与えることで、意図した出力が得られやすくなります。

また、生成AIはデータを基に動作するため、データの適切な取り扱いとセキュリティ確保が重要です。

さらに、組織での導入時には、関係者の理解促進とトレーニング、業務フローへの統合を計画的に進めることが成功の鍵となります。



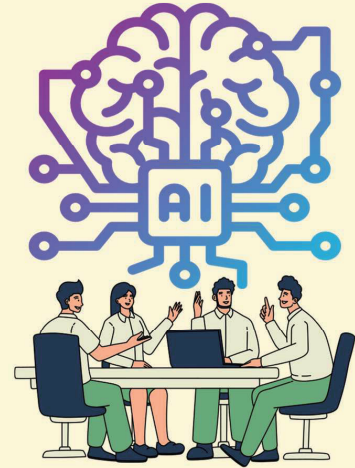
## 生成AIの最新動向と未来展望

生成AIの最新動向は、ますます高度な文章生成や自動化機能の進化に注目が集まっています。

最新技術では、文脈理解の精度が向上し、より自然で一貫性のある文書作成が可能になっています。

企業では、顧客対応の自動化、提案書の迅速な作成、データ分析レポートの自動生成など、業界別に特化した応用が進んでいます。

未来のドキュメントワークフローでは、AIが意思決定支援や共同編集の促進など、より高度な自動化と効率化を実現する可能性があります。



## 第10章 確認テスト

問1 第10章で解説されている「生成AIを活用したドキュメントワークフローの自動化」の主なメリットとして誤っているものはどれでしょうか？

1. 文書作成の自動化により、作業時間を短縮できる
2. フォーマットを統一することで、品質を一定に保てる
3. 文書作成における手作業やミスを増やす
4. 情報共有や更新が迅速に行える

問2 ドキュメント業務において、生成AIを活用すると得られる効果として正しいものはどれでしょうか？

1. 作業時間が増加する
2. ミスが発生しやすくなる
3. フォーマットのバラつきが大きくなる
4. 文書の作成・修正が効率化される

**問3 生成AIの活用例として、適切でないものはどれでしょうか？**

1. 契約書や議事録の作成
2. カスタマーサポートの自動応答
3. 社内報の自動作成
4. 企業ロゴの自動デザイン

**問4 Google Apps Scriptを活用したGoogle Docsとの連携で可能となることとして、最も適切なものはどれでしょうか？**

1. 文書の自動生成とフォーマット統一
2. 文章の手入力作業のみを強化
3. オフライン環境でのAIモデルトレーニング
4. 電子メールの自動暗号化

**問5 Microsoft Wordと生成AIの連携におけるメリットとして強調されている内容はどれでしょうか？**

1. 手書き文書のデータ化が不要になる
2. AIがテンプレートを活用して文章を自動生成する
3. 書類の印刷コストが大幅に削減される
4. リアルタイムでの共同編集ができなくなる

**問6 Excelと生成AIの連携により特に効率化されるとされる業務はどれでしょうか？**

1. 画像編集と動画編集
2. セキュリティ認証の管理
3. データ分析とレポート作成
4. 顧客リストのメール送信のみ



**問7 生成AIを活用した文書作成のメリットとして正しくないものはどれでしょうか？**

1. 誤字脱字の修正や文体の統一が可能
2. プレゼン資料の見栄えを整える効果がある
3. 文章のリライトで表現の質を向上できる
4. 文書のバージョン管理が不要になる

**問8 契約書の作成に生成AIを活用する場合の利点として挙げられているものはどれでしょうか？**

1. 条件入力により、異なる内容にも柔軟に対応できる
2. 契約書のリーガルチェックが不要になる
3. 契約更新時に毎回新規作成が必要
4. AIによるデータ分析機能は使えない

**問9 議事録の自動生成で、生成AIと組み合わせる技術として紹介されているものはどれでしょうか？**

1. 音声認識技術
2. 顔認証技術
3. 画像認識技術
4. バーチャルリアリティ技術

**問10 生成AIを効果的に活用するためのベストプラクティスに関して言及されている内容として最も適切なものはどれでしょうか？**

1. AIは自己学習のみで精度が上がるので、人間による指示は不要
2. データのセキュリティ確保と明確なプロンプト設計が重要
3. トレーニングを行わなくても常に正しい結果が得られる
4. 業務フローへの統合は自動的に行われるため、計画は不要

# 確認テスト 解答



## 「DX 推進者育成教材資料」確認テスト解答

### 第1章「生成 AI の現状と ビジネス活用動向」

Q1 3

Q2 4

Q3 4

Q4 2

Q5 2

Q6 2

Q7 2

Q8 2

Q9 2

Q10 3

### 第2章「生成 AI ツールの 種類と選定基準」

Q1 2

Q2 3

Q3 4

Q4 4

Q5 2

Q6 2

Q7 3

Q8 3

Q9 1

Q10 2

### 第3章「プロンプトエンジニアリングの基礎と応用」

Q1 1

Q2 2

Q3 4

Q4 3

Q5 3

Q6 2

Q7 1

Q8 4

Q9 2

Q10 1

#### 第4章「テキスト生成 AI の業務活用」

Q1 4

Q2 1

Q3 4

Q4 1

Q5 1

Q6 2

Q7 1

Q8 2

Q9 2

Q10 2

#### 第5章「画像・動画・音声生成 AI の活用」

Q1 2

Q2 3

Q2 3

Q3 3

Q4 2

Q5 2

Q6 2

Q7 1

Q8 4

Q9 4

Q10 2

## 第6章「クラウド AI と API を 活用したサービス開発」

Q1 2

Q2 3

Q3 2

Q4 1

Q5 2

Q6 3

Q7 2

Q8 1

Q9 3

Q10 3

## 第7章「営業・マーケティングでの生成 AI 活用」

Q1 2

Q2 3

Q3 1

Q4 2



Q6 3  
Q7 2  
Q8 4  
Q9 2  
Q10 3

## 第8章「業務効率化と BPR における生成 AI 活用」

Q1 2  
Q2 2  
Q3 2  
Q4 4  
Q5 1  
Q6 1  
Q7 2  
Q8 1  
Q9 2  
Q10 2

## 第9章「生成 AI の倫理・コンプライアンス・セキュリティ対策」

Q1 4  
Q2 1  
Q3 4  
Q4 1  
Q5 3  
Q6 4  
Q7 2  
Q8 2

Q9 2

Q10 1

## 第 10 章「生成 AI を活用したドキュメントワークフローの自動化」

Q1 3

Q2 4

Q3 4

Q4 1

Q5 2

Q6 3

Q7 4

Q8 1

Q9 1

Q10 2



## 演習課題



# 第1章 演習課題

## 課題1：生成AIの基礎理解

### 1. 用語確認

次のキーワードについて、それぞれ「何を指すか」を資料()を参考に簡潔にまとめてください。

- 生成AI (Generative AI)
- GPT-4.5
- Gemini
- Claude

### 2. 生成AIの特徴

生成AIは従来のAIと比べてどのような点が異なるのか、資料()にある記述を基に 2～3 行程度で要約してください。

## 課題2：主要な活用事例の分析

資料()には、マーケティング、カスタマーサポート、小売・EC、医療、教育など複数分野での活用例が示されています。以下の問いに答えてください。

### 1. 活用事例の選択と要点整理

あなたが興味を持った活用事例を 1 つ選び、どのような課題を解決しているかを 3～4 行程度でまとめてください。

### 2. 業務効率化への貢献

選んだ活用事例は、具体的にどのような形で業務効率化を実現しているでしょうか。

- 従来のプロセスや人材コストとの対比を意識しながら説明してください。

### 3. 新たな可能性の提案

選んだ活用事例をさらに発展させるとしたら、どんな追加機能や連携が考えられるか 2 点ほど提案してください。

### 課題3：企業導入の観点で考える

資料()には大手企業やスタートアップによる成功事例が取り上げられています。以下の問いに教えてください。

#### 1. 成功事例に共通する導入ポイント

- Google、Microsoft、Meta などの事例()から共通して見られる「導入時のポイント」を2~3点抽出してください。
- それらのポイントがどのようにビジネス変革に寄与するか、簡潔に説明してください。

#### 2. スタートアップの成長要因

- 生成AI関連のスタートアップが急増している要因を、資料()をヒントに考察してください。
- 従来ビジネスとの違い、もしくはアドバンテージはどこにあると思いますか。

#### 3. 自社導入シミュレーション

- あなたが所属する、あるいは想定する企業で生成AIを導入する場合、どのような領域に適用が可能か書き出してください。
- 想定される課題（コスト、データ準備、スキル不足など）を挙げ、それに対する対策を検討してください。

### 課題4：倫理的・法的リスクへの対応

資料()では、生成AIにおける「著作権」「個人情報」「誤情報」などのリスクが指摘されています。

#### 1. リスクの整理

- 倫理・法規制の観点から、企業が注意すべきリスクを3点挙げ、各リスクの具体例を説明してください。

#### 2. リスクを低減する対策



- ファクトチェックや人的監視など、資料()から考えられるリスク低減策を2~3点挙げ、その実施方法を検討してください。

### 3. ディスカッション演習

- 「生成AIがビジネスにもたらすメリット」と「リスク管理によるコストや制約」のバランスについて、グループまたはペアで議論する想定で意見をまとめてください。

## 課題5：将来展望と導入計画立案

資料()の「今後の進化と可能性」を踏まえ、以下の課題に取り組んでください。

### 1. AGI (汎用人工知能) への期待

- AGI が実現した場合、ビジネスや社会にはどのようなインパクトがあると資料()では示唆されているでしょうか。
- そのインパクトを前提に、新規ビジネスモデルやサービスを1つ考案してください。

### 2. 導入ステップの計画書作成

- 資料()で紹介されている「小規模 PoC から本格展開へ」という流れを参考に、導入ステップを以下の観点で簡単にまとめてください。
  1. 目的・期待効果
  2. 必要データ・システム
  3. 成果測定の指標 (KPI)
  4. 本格展開後の運用・拡張プラン

### 3. 人材育成プランの提案

- 生成AIを活用できる人材を育成するために、社内研修や外部講座などどのようなプログラムが必要か、最低2つの施策を挙げてください。
- それぞれの施策がどのように組織全体の競争力を高めるかを簡潔に述べてください。

## 第2章 演習課題

### 1. 比較表作成演習

#### 課題内容

資料に登場する生成AIツール（例: ChatGPT、DALL・E、Stable Diffusion、GitHub Copilot など）をいくつか選び、それぞれの以下の項目を比較表にまとめてください。

- 主な機能・得意分野
- 想定される活用シーン
- メリット（強み）
- デメリット（注意点）
- 学習データや利用時の注意点

### 2. プロンプト作成実践

#### 問題

ChatGPT などのテキスト生成AIに対して、どのように質問（プロンプト）すれば欲しい情報を効率よく得られるかを考え、以下の2つのケースで最適な質問文を作成してください。

#### 1. YouTube の台本作成

- テーマ：初心者向け料理チャンネル
- 台本に含めたい要素：オープニング挨拶、材料一覧、調理手順、まとめの一言
- ChatGPT が生成する上で考慮したいポイント：視聴者にわかりやすい言葉づかい、調理のコツ、作業時間

#### 2. 社内共有用レポートの作成

- テーマ：新しい生成AIツール導入の提案

- レポートに含めたい要素：導入背景、ツールの特徴・機能、コスト比較、効果・リスクのまとめ
- ChatGPT が生成する上で考慮したいポイント：専門外の社員にもわかる平易な説明、誤情報を避けるための出典明記、導入メリットの具体的な事例

### 3. リスク評価演習

#### 内容

生成AIツールを業務や個人の創作で活用する際に想定されるリスクを洗い出し、対策を考えましょう。以下の観点に基づき、具体的な事例を挙げながら解説してください。

- 誤情報（内容の正確性の欠如）
- 著作権問題（画像や文章など）
- データの偏りや倫理的配慮（差別的表現、フェイクニュース拡散など）
- セキュリティ（機密情報の取り扱い）

### 4. ケーススタディ：ツール導入計画書の作成

#### シチュエーション

あなたは、新しく画像生成AIを導入しようとするマーケティング部の担当者です。  
上司に「導入するツールとその理由」をプレゼンするため、計画書の作成を任されました。

#### 課題

1. 画像生成AIツール（DALL-E や Stable Diffusion など）を導入する理由を3つ挙げてください。
2. 選んだツールの特徴と、自社で想定する主な活用事例（たとえば広告ビジュアル、SNS投稿用クリエイティブ作成など）を2つ以上提示してください。

3. 計画書に含めるべき「運用上の注意点」をまとめてください（コスト、導入時の操作研修、AIが生成するビジュアルの品質チェック体制など）。

## 5. 発展課題：複数ツールの連携シナリオ作成

### 内容

以下のツールを組み合わせ、1つのコンテンツを作成するシナリオを考えましょう。

- ChatGPT：文章作成
- Stable Diffusion：画像生成
- ElevenLabs：音声ナレーション作成
- Runway：動画編集

### 具体的課題

1. 目的：どのようなコンテンツを作るか決める（例：サービス紹介の短編動画、商品レビュー動画など）。
2. 手順：各ツールで何を作り、どのように統合するかを時系列でまとめる。
3. 成果物の例：
  - ChatGPT で作成した原稿 → Stable Diffusion で背景画像を生成 → ElevenLabs で音声を作成 → Runway で動画素材を組み合わせで完成
4. 注意点：
  - 必要とされるライセンスや著作権確認
  - 出力されたコンテンツの最終的な品質チェック方法

## 第3章 演習課題

### 演習1：明確で具体的なプロンプトを作成する

#### 背景

「効果的なプロンプト設計には、明確で具体的な指示が不可欠です」

曖昧な指示だと、AIが勝手に情報を取捨選択してしまい、期待した出力にならない場合があります。

#### 課題

1. 以下の「曖昧なプロンプト」を、より具体的なプロンプトに書き直してください。
  - 「英語の会話文を生成して」
2. 書き直したプロンプトを使ってAIに問い合わせ、生成された回答を評価してください。評価時は「具体的な指示を与えたことで、出力のどの点が変わったか」などをレポートにまとめましょう。

### 演習2：制約条件を盛り込んだプロンプトを設計する

#### 背景

「適切な制約を設けることで、より目的に即した情報を引き出せる」

制約を細かく設定することで、AIがどのように応答の範囲を絞り込めるかを学びます。

#### 課題

1. 指示の中に「文字数制限」「出力フォーマット」「対象読者」などの制約条件を入れたプロンプトを作成してください。
  - 例：「小学生向けに、200文字以内の説明文を箇条書きで書いて」など。

2. 実際にAIにプロンプトを投げて、回答された結果を確認しましょう。どの制約がどのように機能したか、解説も合わせて記述してください。

## 演習3：Chain of Thought ( CoT ) の手法を取り入れる

### 背景

「Chain of Thought (CoT) とは、思考プロセスを段階的に説明させることで、より正確な回答と理解しやすい解説を得る手法です」

### 課題

1. 以下の問題について、まずは「解法手順を順番に説明しながら回答するように」求めるプロンプトを作成してください。
  - 「1から20までの整数のうち、3の倍数と5の倍数は何か、すべて列挙してください。」
2. 作成したプロンプトをAIに与えてみて、「段階的な思考」をAIに出力させ、回答が正しいかどうかを確認してください。
3. CoTを使わずに同じ質問をした場合と比較し、出力内容や正確性がどう変わったか検証結果をまとめてください。

## 演習4：ReAct手法を試す

### 背景

「ReAct では推論 ( Reasoning ) と行動 ( Action ) を組み合わせ、問題解決を支援するインタラクティブなやり取りを実現します」

### 課題

1. あなたが架空の企業のデータアナリストだとして、以下のようなプロンプトを考えてください。
  - AIに売上データを簡単に分析させ、それに対する要因を推論 ( Reasoning ) させたいので、「では、その要因を改善するために具体的にどんな行動 ( Action ) が必要か」を尋ねる。
2. 実際にAIに入力してみて、「推論結果」と「具体的アクション提案」の両方が得られるかを検証してください。どんな質問の仕方をするとより詳細なActionが得られたか、フィードバックをまとめましょう。

## 演習5：ビジネスシナリオへの応用

### 背景

「カスタマーサポートやマーケティング、データ分析など、ビジネスの現場でどのようにプロンプトエンジニアリングが活用できるかを学ぶ」

### 課題

#### カスタマーサポート編

1. 架空のECサイトの商品キャンセルに関するお問い合わせに対して、「AIがどんな手順で解答を導くのか」を明示させるプロンプトを作りましょう。
2. 実際に生成された回答を見て、ユーザーが理解しやすい内容になっているかを評価してください。

#### マーケティング編

1. 「20代向けにカジュアルなトーン」で新商品の宣伝文を作りたいとき、どんなプロンプトを設定すると効果的か、例示してください。
2. 実際にAIが生成したコピーが「想定ターゲットに合っているかどうか」を検証し、改善点をフィードバックしてください。

#### データ分析編



1. 「過去6か月の売上データを分析し、増減の理由を説明して」とAIに指示するとき、より詳細な分析結果を引き出すにはどうすればよいか、制約やフォーマットの例を提示してください。
2. AIが提示した分析結果の妥当性や、さらに深いインサイトを得るために追加で必要な質問を考察し、プロンプトを改善してみましょう。

## 演習6：深津式プロンプト（フレームワーク）の応用

### 背景

「深津式プロンプト」とは、制約条件やタスクを明確にするために設計されたフレームワークで、ChatGPTをより効率的かつ精度高く利用する狙いがあります

### 課題

1. 深津式プロンプトの「{ text }」部分（目的・話題・制約をまとめる部分）に、以下のビジネスケースを当てはめてみてください。
  - ケース：新しいSNSアプリのローンチで、10～20代を対象に魅力を伝えるPR文を作りたい。
2. 深津式プロンプトを使ってAIから得た回答をレビューし、「よりターゲット層に響かせるには何を追加・修正すべきか」考え、プロンプトを再度書き直してください。
3. 改善後のプロンプトを使ってAIに問い合わせ、出力内容がどう変化したかをレポートにまとめましょう。

## 第4章 演習課題

### 演習課題1：基礎理解（リーディング＆リスニング想定）

#### (1) 用語の確認

##### 1. テキスト生成AIとは何か

- PDFの内容(「テキスト生成AIの業務活用」)に基づき、テキスト生成AIの概念を説明してください。
- ポイント: 自然言語処理、ビジネス活用例、ツールの代表例などを含める。
- 参照:

##### 2. テキスト生成AIで可能な機能を3つ挙げて、それぞれ簡単に説明

- 要約機能、翻訳機能、校正・添削機能などについて、具体例を示しながら説明してください。
- 参照:

##### 3. テキスト生成AIの導入メリットを2つ挙げる

- 作業時間の短縮や人的コスト削減など、PDFで紹介されている代表的なメリットをピックアップし説明。
- 参照:

#### (2) 読解問題

PDFの内容を踏まえて、以下の選択肢のうち正しいものを選んでください。

1. テキスト生成AIの主な目的は「手作業より時間のかかる文書作成」である。
  2. レポート作成の自動化により「文章の一貫性と品質が向上」する。
  3. 会議の議事録作成自動化では「会議音声の文字起こしや要点抽出が可能」である。
  4. カスタマーサポートのAIチャットボットを導入すると「24時間対応ができず、顧客満足度が下がる」ことが一般的である。
- 上記4つのうち、正しい内容はどれかを選んで理由を述べてください。
  - 参照:

## 演習課題2：ケーススタディ（スピーキング＆ライティング想定）

### (1) レポート作成の自動化を導入するケース

あなたの企業では、週次で「営業報告レポート」を作成して上長に提出する必要があります。テキスト生成AIを活用してレポート作成を自動化するとしたら、どのようなステップを踏むかを簡潔にまとめてください。

- ヒント: データの取り込み→要約や構成案の生成→自動作成後のチェックフローなど。
- 参照:

### (2) FAQの自動応答システムを構築するケース

自社ECサイトのFAQページを、テキスト生成AIを使ったチャットボットに置き換えることを検討しています。期待できる効果と注意が必要な点をそれぞれ2点ずつ挙げてください。

- 参照:

## 演習課題3：応用・実践

### (1) AIと人間の役割分担

PDFで紹介されているように、AI導入のメリットだけでなく、正確性の担保やセキュリティ面などの課題も挙げられています()。

- AIが得意とするタスクと、人間が行った方が良いタスクを整理し、「どの業務をAIに任せるべきか」「どの業務を人が行うべきか」を具体的に示してください。
- 理由も添えて説明してください。

## (2) テキスト生成AIの効果測定

テキスト生成AIを導入した場合、その効果を定量的に測るための指標や方法を3つ提案し、各指標を選んだ理由を説明してください。

- ヒント: 作業時間短縮率、コスト削減額、顧客満足度指標など。
- 参照:

## 演習課題4：実際にAIを使ってみよう（実務ワーク想定）

### (1) 自動メール作成のシミュレーション

- 想定シチュエーション: クライアントへのお礼メール。
- 手順:
  1. AIに指示する「プロンプト案」を自分で作成（要件：相手の氏名や案件名、次のアクションなど）。
  2. AIから出力されたメール文面を、自分で校正・添削する。
  3. 校正した結果、修正した箇所と理由をまとめる。
- 学習ポイント: プロンプト設計、AI出力の評価・修正方法。

### (2) 会議議事録の自動作成と要点抽出

- 想定シチュエーション: 定例会議（30分程度）の議事録。
- 手順:
  1. 会議の音声データや要点メモをAIに入力して議事録を生成。
  2. 生成された議事録のうち、特に重要な部分だけをAIに要約させる。
  3. 要約と元の議事録の差分を検証する（不足や誤りがないか）。
- 学習ポイント: テキスト生成AIを使った議事録自動作成の流れ、要約結果の品質評価。

## 演習課題5：振り返り・今後の展望

### 1. 業務効率化の次のステップ

- PDFでは「よりクリエイティブな業務支援や意思決定の補助」に活用できる可能性が示唆されています()。自社に導入するとしたら、「クリエイティブな業務」や「意思決定プロセス」でAIが果たせる役割をどう考えますか？
- 自分の職場や想定業務にあわせて具体例を出し、活用アイデアを示してください。

### 2. 導入の際の課題と対策

- 正確性やプライバシーの問題などを再点検し、導入にあたって必要と考えられる社内ルールやガイドラインを作成し、箇条書きにまとめてください。
- 参照：

## 第5章 演習課題

### 演習1：資料内容の要点整理

#### 【目的】

資料に記載された内容を理解し、生成AIの概要や活用分野、課題点を整理する。

#### 【課題】

「画像・動画・音声生成AIの活用」資料を熟読し、以下の項目についてまとめてください。

生成AIの主な活用領域

生成AIを導入するメリット（コスト削減、制作効率など）

生成AIを活用する上での課題や懸念点（著作権、倫理、法規制など）

まとめた内容をA4サイズ1枚程度のレポートに整理し、図表や箇条書きを活用してわかりやすくまとめてください。

#### 【ポイント】

資料の全体像を把握し、主要なキーワードや数字を取りこぼさないようにする。

文章だけでなく、可能であれば簡単なマインドマップやフローチャートを入れるとさらにわかりやすくなる。

### 演習2：広告用バナーのコンセプトデザイン

#### 【目的】

生成AIツールを用いて、マーケティング用途のクリエイティブ制作を体験する。資料にある「AIを用いた広告・マーケティング素材の作成」の流れを参考に、具体的なコンセプトデザインを行う。

#### 【課題】

生成AI（例：DALL・E、Stable Diffusionなど）を利用して、架空の新製品「AI搭載スマートウォッチ」の広告用バナー画像を作成するコンセプトを考案してください。

考案したコンセプトをもとに、生成AIに入力するプロンプトを具体的に作成し、そのプロンプトを使って得られた画像を提示してください。

生成した画像がどのようにブランドイメージを伝え、ターゲット層に訴求するかを200～300字程度で説明してください。

## 【ポイント】

生成AIに入力するプロンプトの作り方が制作物の品質を左右します。ターゲット層やデザインイメージなどを詳細に指定しましょう。

生成AIが出力した画像へのフィードバック、微調整のプロセスもあわせて記録すると良いです。



## 第6章 演習課題

### 演習課題1: クラウドAI APIの概要と比較内容

OpenAI API / Google Gemini API / AWS Bedrock API のそれぞれの特徴を調べ、以下の観点で比較表を作成してください。

提供される主なAI機能対応しているモーダル ( テキスト・ 画像・ 音声・ 動画など )

料金体系の概要

他サービスとの連携 ( Google Cloud、AWS、他 )

比較結果から、チーム内で「どのAPIをどのようなサービスに活用できそうか」をディスカッションし、アイデアをまとめましょう。

#### ポイント

比較項目を明確に定義することで、各APIの適材適所を理解します。

料金や利用規約なども考慮することで、実際の導入シーンを想定しやすくなります。

### 演習課題2: Google Gemini APIを活用したマルチモーダル検索アプリの企画

#### 内容

ユーザーのテキスト入力だけでなく、画像や動画の内容に応じた情報を返せる検索アプリの企画書を作成してください。

例: ユーザーが画像をアップロードすると、その画像内容を解析し、関連情報をテキストで返す

企画書には以下を含めてください。

アプリの目的とターゲットユーザー

必要な機能一覧 ( アップロード機能、分析API呼び出し機能など )

期待される効果・ユーザー体験 ( UX ) のシナリオ

## ポイント

Gemini APIの「テキスト・画像・動画を統合的に処理できる」強みを意識しましょう。

具体的な使用例を盛り込み、利用シーンをわかりやすく示すと説得力が高まります。

## 第 7 章 演習課題

### 演習 1：知識確認

Q1. 生成 AI が営業・マーケティング領域で重要視されている理由を、資料の内容を踏まえて 2 つ挙げてください。

- ポイント: パーソナライズ化の実現、データ分析から得られる洞察など

Q2. 次の選択肢の中から、生成 AI を活用している企業の具体例として正しいものをすべて選んでください。

1. Netflix
2. Coca-Cola
3. Nike
4. 日本の地方自治体
5. HubSpot

- ポイント: 資料中で明確に述べられていた企業を選択する

Q3. 「生成 AI を使った営業資料作成」のメリットとして資料で挙げられている内容を、短文で 2 つ列挙してください。

- ポイント: 資料作成時間の短縮、高品質なプレゼン資料・提案書の作成など

### 演習 2：応用問題

Q4. あなたが EC サイトを運営していると仮定し、生成 AI を使ったパーソナライズドマーケティングを実践したいとします。下記の要素を盛り込んだ活用シナリオを 200 字程度で説明してください。

- ユーザーの行動データ分析
- 個別のレコメンド商品の提示
- 効果測定

**Q5. 生成 AI の活用によるメリットと同時に懸念される課題点について、下記の観点で箇条書きにまとめてください。**

- **メリット:** 効率化・顧客エンゲージメント向上
- **懸念点:** データバイアス・プライバシー

## **演習 3 : 実践シミュレーション**

### **Q6. AI を活用した営業支援ツール導入計画書作成 ( 仮想演習 )**

次の条件を満たす「営業支援ツール導入計画書」を作成してください ( 400 字程度 )。なお、資料の内容を参考に、「何を実現したいか」「どのようにツールを運用するか」「想定される効果と課題」は必ず盛り込んでください。

- **想定企業:** BtoB ソリューション提供会社
- **導入するツール:** 生成 AI が搭載された SaaS 型営業支援ツール
- **ゴール:** 商談成功率と顧客満足度の向上

### **Q7. AI を使ったマーケティングキャンペーン企画 ( 仮想演習 )**

資料を参考に、生成 AI でコンテンツ制作・ターゲティング自動化を行うキャンペーン企画案を作成してください ( 300 字程度 )。以下の要件を組み込んでください。

1. SNS 投稿の自動生成
2. 個別最適化した広告配信
3. 成果指標(KPI)の設定 ( 例 : クリック率、CVR など )

## 第8章 演習課題

### 演習1：キーワード理解 & 要点把握

#### 目的

業務効率化とBPR（業務改革）の基本概念を理解する

生成AIとの関連性を整理する

#### 課題内容

キーワード整理

「業務効率化」「BPR（業務改革）」「生成AI」の3つのキーワードの定義を、PDFの説明を参考に 自分の言葉 でまとめてください。

#### 要点の要約

PDFの内容を踏まえて、以下の問いに 要点だけ まとめて答えてください。

業務効率化の具体的な目的とは何か

BPR（業務改革）と業務効率化の違いとは何か

生成AIはこれらの活動に対してどのような役割を果たすか

※回答は箇条書きで簡潔にまとめること。

### 演習2：課題抽出と優先順位の決定

#### 目的

業務課題の洗い出し方を理解し、優先順位をつける視点を学ぶ

生成AIの導入可否を考慮した課題整理を行う

#### 課題内容

課題の洗い出し

あなたの職場、または想定する企業をイメージして、以下の観点から 3つの業務課題 を洗い出してください。

繰り返しが多く属人的になりがちな作業

専門知識が必要な作業

コミュニケーションや承認プロセスに時間がかかる作業

## 優先順位付け

洗い出した3つの課題について、PDFにある優先順位の付け方（「業務の頻度」「負荷」「自動化・改善の影響度」「生成AI適用可否」など）を踏まえ、最も優先すべき課題から順に ランキングしてください。あわせて、そう判断した理由を書いてください。

## 演習3：生成AI活用シナリオの設計

### 目的

生成AIがどのように業務に組み込まれるかを具体的に想定する

AI活用で期待できる効果を整理する

### 課題内容

導入シナリオの作成

PDFにある「文書作成・要約」「データ処理・分析」「チャットボット」などの活用例を参考に、 自社(または架空企業)の業務へ生成AIを導入するシナリオ を1つ描いてください。以下の項目を含めること。

対象業務（例：データ入力、顧客対応など）

生成AIの具体的な活用方法

期待される効果（時間削減、品質向上、コスト削減など）

### 課題・リスクの検討

上記シナリオで想定される課題やリスクを 2点以上 述べ、どのように対策できるかも併せて考えてみてください。

例：データの正確性、プライバシー保護、従業員のスキル不足など

## 演習4：事例研究（A社・B社の比較）

### 目的

PDFに掲載されている事例を深く理解し、自社への応用可能性を探る  
事例を比較・分析することで、BPRと業務効率化の要点を整理する

### 課題内容

A社（製造業）の事例要約

A社が直面していた課題は何か

生成AI導入によってどのような効果が得られたか

BPRの視点で見ると、どんなプロセス改革が起きたと考えられるか

B社（サービス業）の事例要約

B社が直面していた課題は何か

生成AI（チャットボット）導入によってどのような変化があったか

従業員の役割・顧客対応の質はどのように変わったか

比較・考察

A社とB社の事例を比較して、以下の問いに答えてください。

なぜ同じ「生成AI活用」でも得られる効果が異なるのか

あなたが所属する（または想定する）業界で適用する場合、どちらの事例に近い課題が多いか、またその理由を述べてください

## 演習5：導入計画と効果測定

### 目的

AI導入のプロセスを整理し、効果測定の重要性を学ぶ  
BPRを意識した継続的な改善プロセスを設計する

### 課題内容



## 導入ステップの設計

PDFの「BPRにおける生成AI活用のポイント」を参考に、生成AI導入の5ステップを作成してください。以下は例です。

現状業務の可視化

課題の特定・優先順位付け

AI導入方針・要件定義

スタッフ研修と運用開始

効果測定と最適化

あなたの業務環境（または想定する環境）でそれぞれのステップをどのように実行するか、具体的に書き出してください。

## 効果測定指標の設定

AI導入後、どのような指標（KPI）を用いて効果を測定しますか。下記の視点を参考に3つ以上挙げ、期待する具体的な成果値や評価方法を考えてください。

時間削減（作業時間、問い合わせ対応時間など）

コスト削減（人件費、外注費など）

品質向上（ミスの減少率、顧客満足度など）

## 演習6：リスクマネジメントと従業員教育

### 目的

AI導入に伴うリスクを洗い出し、対策を考える

従業員の役割変化やスキルアップに必要な施策を検討する

### 課題内容

リスクアセスメント

生成AI導入によるリスクを3つ挙げ、それぞれに対する対策案を示してください。

例:

データ漏洩リスク：アクセス権限の設定強化、個人情報取扱ルールの徹底

AIへの過度な依存：定期的な人による検証プロセスを設ける など

## 従業員教育プラン

AI活用を進めるうえで、従業員にはどのようなスキルが必要になるか

新しい役割（業務プロセスの監督者、AIの結果検証担当など）を想定した上で、教育プランを提案してください

研修形式（座学、実習、eラーニングなど）や期間、評価方法など具体的に記載する

## 演習7：まとめと振り返り

### 目的

全演習で学んだ内容を振り返り、自分なりの知見を整理する

実務への応用イメージを固める

### 課題内容

#### 学びの要約

演習1〜6を通じて、新しく学んだ点、印象に残った点、すでに知っていたが再確認できた点を 箇条書き で整理してください。

### 実務活用のアイデア

今回学んだ内容を どのように自分の業務や組織に活かせるか、具体的なアイデアを2つ以上挙げてください。

実践するときに考慮すべきステークホルダー（上司、同僚、顧客など）や、事前調整のポイントがあれば併せて書いてください。

## 第9章 演習課題

### 問題1. AIのバイアスとは何か

(記述式)

- 生成AIの文脈において「AIのバイアス」とは何を指すのでしょうか。バイアスが生じる原因や、社会・企業にもたらすリスクについて説明してください。

### 問題2. バイアスを軽減するための具体策

(穴埋め式)

- 以下の文章の (      ) に適切な語句を入れて、バイアス軽減策を完成させてください。
  1. (      ) なデータセットを使い、公平な学習を促す。
  2. フェアネスを測定する手法を導入し、(      ) を継続的に検証する。
  3. 運用後もモニタリングと(      ) を行い、常にAIの判断を改善し続ける。

### 問題3. 説明可能なAI ( XAI ) の重要性

(短答式)

- 「説明可能なAI ( XAI ) 」とは何ですか。また、企業がXAIを導入することで得られる利点を2つ挙げてください。

## 問題4. データ管理におけるリスクと対策

(記述式)

- 企業が生成AIを活用する際、データ管理においてどのようなリスクが考えられますか。機密情報の流出や不正アクセスを防ぐための具体的な対策を3つ以上挙げてください。

## 問題5. 企業のデータガバナンス事例

(事例考察)

- PDFでは、ある企業がAIに機密情報を誤って学習させないよう「匿名化技術」を活用してリスクを最小化している事例などが紹介されています。
  - このような「匿名化」のメリットと限界をそれぞれ述べてください。
  - あなたが企業の担当者である場合、匿名化以外に取れる追加のガバナンス施策を提案してください。

## 問題6. AI生成コンテンツの著作権問題

(記述式)

- 生成AIが作成したコンテンツに関する著作権の課題とはどのようなものですか。また、その課題に対して企業や個人はどのような対応策をとる必要があるでしょうか。

## 問題7. 各国のAI法規制とガイドライン

**(正誤判定式)**

- 次の記述が正しいか、誤っているかを判断し、理由も簡潔に述べてください。
  1. 「EUのAI規制法案 ( AI Act ) は、高リスクAIを対象とした厳格な管理を求めている」
  2. 「日本ではAIに関するガイドラインを策定していない」
  3. 「米国では透明性や倫理基準を強調するAI関連の政策が進められている」

**問題8. AI生成コンテンツを活用する際のコンプライアンス**

**(応用・論述式)**

- あなたが企業でAI生成ツールの導入を推進する担当者だとします。著作権や法規制との整合性を保ちながら、AI生成コンテンツを安全かつ有効に活用するために、どのような社内ルールやプロセスを構築すべきか、具体的に述べてください。

## 第10章 演習課題

### 演習課題1：契約書の自動生成

#### 1. メリットとリスクの整理

生成AIを用いて契約書を自動生成する場合、どのようなメリットがあり、どのようなリスクが考えられるかを整理してください。

- メリット例: 作業時間削減、法的要件の統一 など
- リスク例: 必要事項の漏れ、テンプレート依存による多様性の低下 など

#### 2. 具体的な適用例の作成

特定の業種や業務シチュエーションを想定し、生成AIを活用してどのように契約書をカスタマイズできるか、手順を含めて考察してください。

### 演習課題2：議事録の自動生成プロセス

#### 1. 必要な技術とツールの洗い出し

生成AIと音声認識技術を組み合わせて議事録を自動生成するとき、必要となるツールや技術をリストアップし、各々の役割を説明してください。

#### 2. ワークフローの設計

会議音声をテキスト化し、要点抽出・フォーマット統一を経て完成版の議事録を得るまでの流れを、フローチャート形式などで具体的に設計してください。

### 演習課題3：Google Docs / Word連携の活用

#### 1. メリットと活用例

Google Docs や Microsoft Word と生成AIを組み合わせるメリットを挙げ、それを活用する具体的なシナリオを考えてください。

- 例: 提案書や報告書をAIが自動作成 → リアルタイムで共同編集

## 2. 運用上のポイントと注意点

社内で導入する際、データの扱い方やセキュリティ面を含め、スムーズな運用のために重要となるポイントを整理してください。

## 演習課題4：Excel連携によるレポート自動作成

### 1. データ分析とレポート出力の具体例

Excelデータを生成AIに読み込ませ、どのような手順でレポートを自動生成するか、手順と想定される出力例を示してください。

### 2. Power Automate等のワークフロー設計

Excelのデータ集計からレポート配信までを一連で自動化する際のフローを考え、実現可能なツールや組み合わせを検討してください。

## 演習課題5：生成AI活用のベストプラクティス

### 1. 効果的なプロンプト設計

生成AIから意図したアウトプットを得るためには、どのようなプロンプト（指示や入力文）が必要か、具体例を用いて説明してください。

### 2. 導入計画とトレーニングの要点

企業内に生成AIを導入し、社内メンバーにトレーニングする場合、どのような段階を踏めばスムーズに定着が進むかをまとめてください。

### 3. セキュリティ・コンプライアンスへの配慮

生成AIの導入時に注意すべきセキュリティ面やコンプライアンス面のリスクと、その対策案を提案してください。





令和 6 年度文部科学省委託「専修学校による地域産業中核的人材養成」事業  
IT 分野 DX 人材養成のモデルプログラム開発と実証事業

## DX推進者育成教材資料

---

令和 7 年2月

一般社団法人全国専門学校情報教育協会  
〒164-0003 東京都中野区東中野 1-57-8 辻沢ビル 3F  
電話：03-5332-5081 FAX.03-5332-5083

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。